Nikon PRONEA S (J)

ADVANCED PHOTO SYSTEM™

Nikon PRONEA S

使用説明書

すぐに撮影したい方は、P.17〜P.33の
「撮影の基本ステップ」をご覧ください。

J

各部の名称

送信ボタン

リモコンML-L1 ☞ P.62

フォーカスモード切り換えダイヤル ☞ P.24

レンズ取り外しボタン ☞ P.20

カートリッジぶた開閉ノブ ☞ P.22

吊り金具

コマンドダイヤル

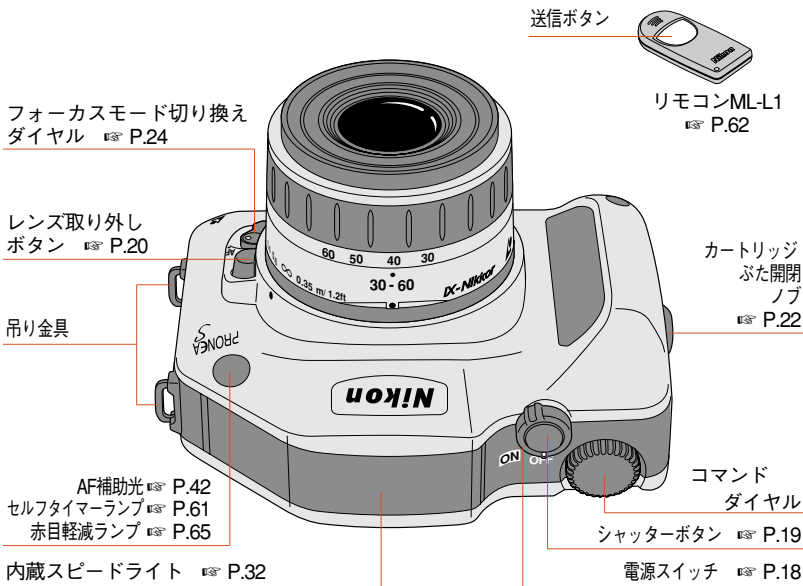
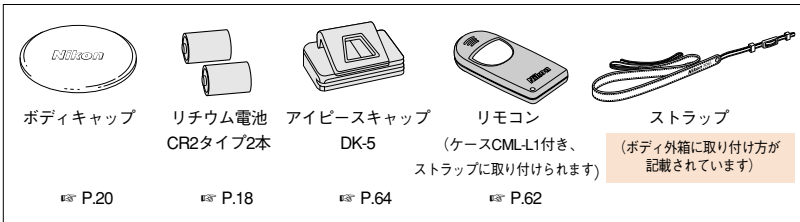
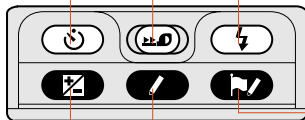
AF補助光 ☞ P.42
セルフタイマーランプ ☞ P.61
赤目軽減ランプ ☞ P.65

シャッターボタン ☞ P.19

内蔵スピードライト ☞ P.32

電源スイッチ ☞ P.18

付属品

ボディキャップ	リチウム電池 CR2タイプ2本	アイピースキャップ DK-5	リモコン （ケースCML-L1付き、 ストラップに取り付けられます）	ストラップ （ボディ外箱に取り付け方が記載されています）
☞ P.20	☞ P.18	☞ P.64	☞ P.62	

接眼目当て DK-11 ☞ P.64
ファインダー接眼窓
プリントタイプ
切り換えレバー ☞ P.54
視度調節レバー ☞ P.64
スピードライト
ロック解除レバー
☞ P.32
カートリッジぶた
☞ P.22
AUTO
P
S
A
露出モード
ダイヤル
☞ P.26
電池ぶた開閉
ノブ ☞ P.18
MADE IN THAILAND
操作ボタン
カバー
表示パネル
☞ P.4
電池ぶた
☞ P.18
三脚ねじ穴
操作ボタンカバー内
途中巻き戻しボタン☞ P.40
SELECT（セレクト）ボタン ☞ P.55
シンクロモードボタン ☞ P.66
ADJUST（アジャスト）ボタン
☞ P.55
セルフタイマーボタン ☞ P.61
リモコンボタン ☞ P.62
DATE（デート）ボタン ☞ P.56
言語ボタン ☞ P.59
露出補正ボタン ☞ P.53
タイトルボタン ☞ P.59

表示パネル／ファインダー内表示について

■表示パネル

☞ 注意 表示パネルとファインダー内表示について

表示パネルとファインダー内に使用されている液晶表示は、高温下では黒くなることがあります。また、低温下では液晶の応答速度が多少遅くなることがあります。いずれの場合も常温時には正常に戻ります。

CE “CEマーキング”について

CEはヨーロッパ協定（Conformité Européenne）の意味で、マーキングはその製品が適応されるEC規定をすべて満たしていることを表しています。

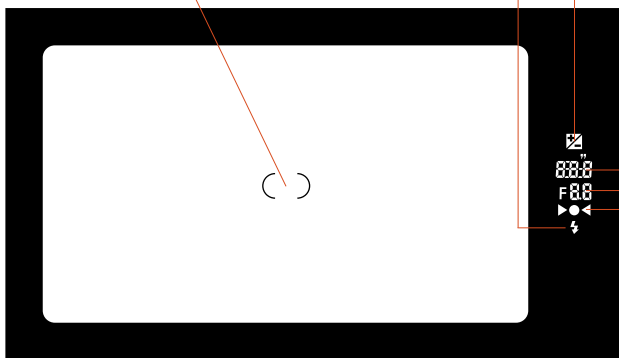
■ファインダー内表示

フォーカスフレーム　☞ P.29

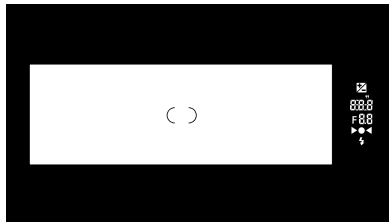
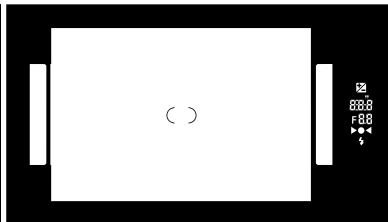
スピードライト推奨マーク／レディライト　☞ P.32/33

露出補正マーク　☞ P.53

ピント表示　☞ P.29

絞り値表示　☞ P.47

シャッタースピード表示　☞ P.47

・上記の説明は、Hタイプ（縦横比9：16）のプリントタイプにセットした時の状態で説明しています。

・プリントタイプ切り換えレバーを操作すると、プリントタイプはH・P・Cタイプのいずれかが選択でき、ファインダー内も次のように変化します。

Pタイプ（縦横比1：3）　　Cタイプ（縦横比2：3）

はじめに

このたびはニコンプロネアSをお買い上げいただきありがとうございます。ご使用の前にこの「使用説明書」をよくお読みのうえ、十分に理解してから正しくお使いください。お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

このカメラには、次のような特長があります。

・アドバンストフォトシステムを採用しており、優れた携帯性を発揮すると同時に、コンパクトカメラ感覚で気軽に撮影が楽しめる一眼レフカメラです。

・各露出モードがダイヤルに絵表示されていますので、希望する露出モードのセットが容易で、多彩な撮影が簡単に楽しめます。

・オートAFサーボ（AF-A）機能により、被写体が静止しているか移動しているか、および移動の方向をカメラが判断し、状況に合わせてシングルAFサーボ（AF-S）かコンティニュアスAFサーボ（AF-C）のどちらかをカメラが自動的に選択します。

安全上のご注意と表示について

製品を安全に正しく使用していただき、あなたや他の人への危害や財産への損害を未然に防止するために、重要な内容を記載しています。

表示と意味は次のようになっています（詳細はP.14～16をご覧ください）。

警告 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

注意 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

△記号は、注意（警告を含む）を促す内容を告げるものです。図の中や近くに具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。

⃠記号は、禁止（してはいけないこと）の行為を告げるものです。図の中や近くに具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は、行為を強制すること（必ずすること）を告げるものです。図の中や近くに具体的な強制内容（左図の場合は電池を取り出す）が描かれています。

ご確認ください

■保証書とご愛用者カードについて

この製品には保証書とご愛用者カードが添付されていますのでご確認ください。

・保証書の詳細につきましては、P.75の「アフターサービスと保証について」をご覧ください。

・ご愛用者カードをご記入の上ご返送くださいますと、カメラの基礎知識、撮影方法、撮影の楽しさなどを紹介しました写真を撮るための手引書「ニコン・ナイスショット」、または著名な写真家による、ニコン機材で撮影した写真集「ニコン・ビュー」のうち、ご希望のいずれか一冊をお届けいたします。

■使用説明書の再発行は当社サービス機関へ

使用説明書の内容が破損などによって判読できなくなったときは、裏面の当社サービス機関にて新しい使用説明書をお求めください（有料）。

■撮影の前には試し撮りを

大切な撮影（結婚式や海外旅行など）をするときには、必ず試し撮りをして、カメラが正常に機能するかを事前に確認してください。

・本製品の故障に起因する付随的損害（撮影に要した諸費用及び利益喪失等に関する損害）についての補償はご容赦願います。

■定期的に点検サービスを受けてください

カメラは精密機械ですので、1〜2年に1度は定期点検を、3〜5年に1度はオーバーホールされることをおすすめします。

・特に業務用にご使用になる場合は、早めに点検整備を受けてください。

・点検整備を依頼される際は、より安心してご愛用いただけるよう一緒にお使いのレンズやスピードライト等も併せて点検依頼されることをおすすめします。

■本製品を安心してご使用いただくために

本製品は、当社製のレンズおよびスピードライトなどのアクセサリーに適合するように作られておりますので、当社製品との組み合わせでご使用ください。

・他社製品との組み合わせ使用により、事故、故障などが起こることもございます。

アドバンストフォトシステムについて

ニコンプロネアSは、アドバンストフォトシステム（これ以降IX240システムと表記します）を採用したカメラです。
IX240システム対応カメラには、シンボルマーク が表示されています。

IX240システムの主な特長

フィルムの装てんが簡単に行え、フィルムの使用状態がマークで確認できます。さらに、フィルムの途中交換なども行えます。

・カートリッジフィルムを採用していますので、今までのカメラのようにフィルムをパトローネから引き出してセットする必要がありません。
・カートリッジフィルムの側面には4段階のマークがついており、このマークによりそのフィルムの使用状態が簡単に確認できます。また、カートリッジフィルムの途中交換や他のMRC（Mid-Roll Change：カートリッジ途中交換）機能（☞ P.41）付きのニコンカメラとの間でのフィルム交換もできます。

撮影シーンに合わせて3種類のプリントタイプが選べます。

・プリントタイプはH・P・Cタイプのいずれかが選択できます。ワイドな縦横比9：16のH（ハイビジョンワイド）タイプ、縦横比1：3のP（パノラマ）タイプ、そして従来の縦横比2：3のC（クラシック）タイプがあり、いろいろなサイズでの撮影が楽しめます。

Hタイプ（縦横比 9：16）

Pタイプ（縦横比 1：3）

Cタイプ（縦横比 2：3）

写真に日付・時刻はもちろん、メッセージも印字できます。

・プリント写真に日付や時刻はもちろん、12カ国の言語で30種類のメッセージ（コンニチワ、アリガトウなど）を印字することができます。

フィルムを現像・プリントに出される場合

認定ラボ店マーク

・このカメラで撮影したカートリッジフィルムを、現像・プリントに出される場合は、上記の「認定ラボ店マーク」を提示してあるお店に出されることをおすすめします。認定ラボ店マークはIX240システム用プリントのガイドラインに対応したお店であることを表しています。

・認定ラボ店マークのあるお店に現像・プリントを出されますと

1. 撮影時にお客様が設定したH・P・Cの各タイプに対応してプリントできます。
2. お客様が設定した日付や時刻、タイトルなどを各プリントに印字可能です。
3. 1本のカートリッジフィルム内に記録されているすべての写真をまとめてプリントした、インデックスプリントがご利用いただけます。
4. 現像済みのネガフィルムは、カートリッジに収納された状態で返却されます。

上記のサービスは、それぞれのお客様のご要望に応じて変更することができます。サービスの内容、料金等については、お店にお問い合わせください。

・お客様が設定した日付や時刻などを、各プリントの表面や裏面に印字可能ですが、表面には印字できない場合もあります。また、印字される内容はラボ機器の仕様により異なりますので、現像・プリントを出されるお店に印字内容をご確認ください。

目次

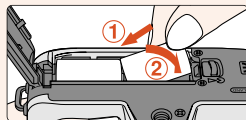
この使用説明書は、「**撮影の基本ステップ**」を中心に構成されています。
「**撮影の基本ステップ**」は電池、レンズ、フィルム、ピント、露出、撮影と基本的な撮影手順を説明しており、すぐに撮影したい方や一眼レフカメラを初めてお使いになる方でも、ここを順にお読みいただければ、簡単に撮影が行えるようになっています。
「**操作の詳細**」では、レンズから露出まで、「**撮影の基本ステップ**」とほぼ同じ順番で各機能をより詳しく説明しています。簡単な撮影方法をマスターした後、各機能の詳細へとステップアップすれば、高度なテクニックを必要とする撮影も行えます。
「**スピードライト撮影**」では、内蔵スピードライトによる撮影方法を説明しています。暗い所ではもちろん、明るい所でも自由自在にスピードライトを活用した撮影が行えます。
使用説明書の全体的な構成は、P.12〜13をご覧ください。それでは、この使用説明書をよくお読みいただき、プロネアSの機能を活用して撮影をお楽しみください。

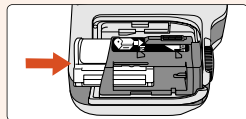
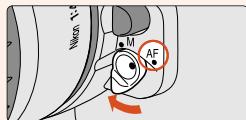
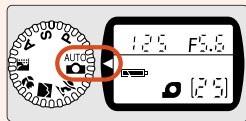
操作の詳細 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P.35～70

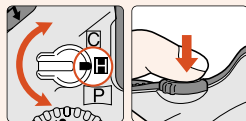
資料編 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P.71～83

使用説明書の構成

撮影の基本ステップ

1 カメラに電池を入れ、
電池の容量を確認します。 P.18～19

2 カメラに
レンズを取り付けます。 P.20～21

3 フィルムを入れましょう。 P.22～23

4 フォーカスモード切り換えダイヤルを
AFにセットします。 P.24～25

5 露出モードダイヤルを
AUTO にセットします。 P.26～27

6 プリントタイプを決め、カメラを構えて、
ピントを合わせます。 P.28～29

7 ファインダー内表示を確認して、
シャッターをきります。 P.30～31

8 内蔵スピードライトを
使ってみましょう。 P.32～33

カメラの取り扱いと電池の取り扱いについて（P.73）

このカメラに使用可能なレンズについて（P.36）・CPU内蔵ニッコール（P.36）／CPU内蔵ニッコール以外のレンズ（P.37）／レンズの焦点距離と画角（P.38）

フィルムについて（P.39）・IX240カートリッジフィルム（P.39）／フィルムの途中巻き戻し（P.40）／フィルムの巻き戻しが行われない場合（P.40）／撮影途中に巻き戻しを行ったカートリッジフィルムの再装てん（P.41）

フォーカスモードについて（P.42）・AF（オートフォーカス）（P.42）／AF補助光（P.42）／M（マニュアルフォーカス）（P.43）
フォーカスロック撮影（P.44）

各露出モードによる撮影（P.45）・AUTO：AUTO（オート）（P.45）／**P**：マルチプログラムオート（P.46）／**S**：シャッター優先オート（P.47）／**A**：絞り優先オート（P.48）　**イメージプログラムによる撮影（P.49）**・ポートレート：ポートレート／風景：風景／クローズアップ：クローズアップ／夜景：夜景　**プログラムシフト／測光方式について（P.51）**　**長時間露出（バルブ）撮影（P.52）**　**露出補正について（P.53）**

プリントタイプについて（P.54）　**日付・時刻の合わせ方と印字について（P.55）**
言語・タイトルのセットと印字について（P.58）　**セルフタイマー撮影（P.61）**
リモコン撮影／タイム撮影（P.62）　**視度調節機能／アイピースキャップについて（P.64）**　**各モードの組み合わせについて（P.70）**

スピードライト撮影（P.65）・内蔵スピードライトとTTL-BL調光（P.65）／シンクロモードの種類と特長（P.65）／撮影方法（P.66）／使用可能なレンズ（P.68）／調光範囲（P.69）／SU-4について（P.69）

操作の詳細

⚠警　告

分解したり修理・改造をしないこと

感電したり、異常動作をしてケガをすることがあります。

落下などによって破損し、内部が露出したときは、露出部に手を触れないこと

感電したり、破損部でケガをすることがあります。
電池を抜いて、販売店または当社サービス機関に修理を依頼してください。

発熱、発煙、焦げ臭いなどの異常時は、速やかに電池を取り出すこと

そのまま使用すると火災、火傷の原因となります。
電池を取り出す際、火傷に充分注意すること。電池を抜いて、販売店または当社サービス機関に修理を依頼してください。

水につけたり水をかけたりしないこと

発火したり感電することがあります。

可燃性ガスの雰囲気中で使用しないこと

爆発、火災の原因になることがあります。

見ないこと

レンズまたはカメラで直接太陽や強い光を見ないこと

失明や視力障害になることがあります。

禁　止

ストラップが首に巻き付かないようにすること　特に幼児・児童の首にストラップをかけないこと

首に巻き付いて窒息することがあります。

⚠注　意

目の近くでスピードライトを発光しないこと

一時的な視力障害になることがあります。

感電注意

ぬれた手で操作しないこと

感電の原因となります。

放置禁止

製品および付属品は、幼児の手の届かない所に保管すること

ケガをしたり付属品や電池を飲み込む恐れがあります。

保管注意

使用しないときは、レンズにキャップをつけるか太陽光のあたらない所に保管すること

太陽光がレンズに入射し、発火の原因となります。

⚠注　意

三脚にカメラやレンズを取り付けたまま移動しないこと

転倒したりぶつけたりしてケガの原因となります。

電池を火に入れたり、ショート、分解、加熱をしないこと

破裂、発火の原因となります。

電池に表示された警告・注意を守ること

破裂、発火の原因となります。

使用説明書に表示された電池を使用すること

発熱、発火の原因となります。

新しい電池と使用した電池、種類やメーカーの異なる電池をまぜて使わないこと

破裂、発火の原因となります。

撮影の基本ステップ

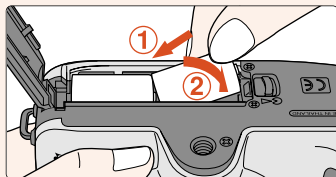
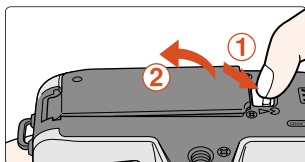
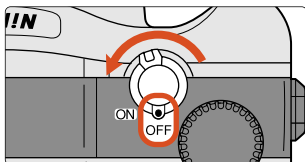
AUTOモードによる
簡単な撮影方法を説明しています。

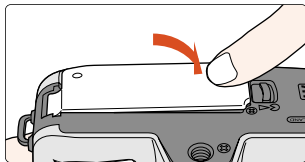
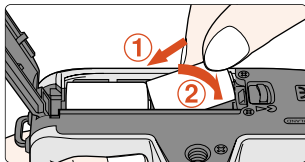
ここでは、もっとも簡単な撮影方法として下表の装着レンズ、カメラ各部の設定を前提としています。一般的な撮影は、AUTOモードでほとんど行えます。

装着レンズ	⇨	IXニッコールレンズ
フォーカスモード	⇨	オートフォーカス
露出モード	⇨	AUTO：AUTOモード
測光モード	⇨	3D-6分割マルチパターン測光
内蔵スピードライト	⇨	ノーマルシンクロ*

* 露出モードをAUTOモードにセットすると、自動的にセットされます。

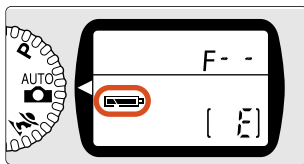
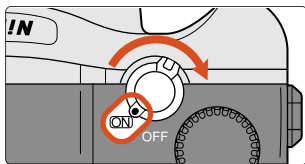
1 カメラに電池を入れ、電池の容量を確認します。

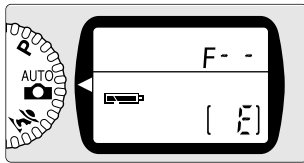
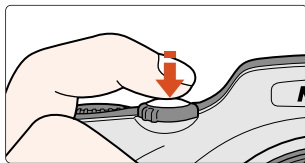
このカメラには、リチウム電池（CR2タイプ）を2本使用します。
（別売りのパワーパックMB-11を使用すると、1.5Vの単3形電池も使用できます ☞ P.72）

1.1 電源スイッチをOFFにし、電池ぶた開閉ノブをスライドさせて電池ぶたを開けます。

・カメラの電池はデート機能の電源も兼ねています。初めて電池を入れた時は、同時に日付と時刻を合わせてください（☞ P.55）。また、電池を交換する場合は、約5分以内に電池を交換すれば交換前の日付と時刻は記憶されていますが、電池を抜いた状態が約5分を超えてリセットされた場合は、日付と時刻を合わせ直してください。

1.2 電池室内の⊕⊖表示にしたがって電池を入れ、電池ぶたを確実に閉じます。

・⊕⊖を間違えますと、故障の原因となる場合があります。
・最初にスプリングのついている方（⊖極側）に電池を１本入れてから２本目を入れ、最後まで確実に押し込んでください。

☑ここをチェックしましょう

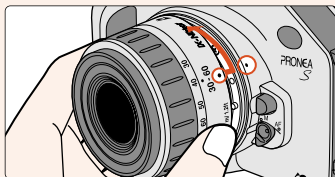
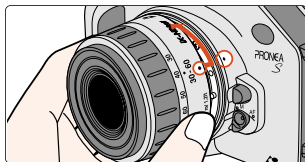
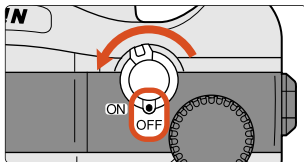
□電池は幼児の手の届かないところに置き、万一、お子様が飲み込んだ場合は、ただちに医師と相談してください（P.74「電池の取り扱いについて」をご覧ください）。
□電池を交換するときは電源スイッチをOFFにして、2本とも同じメーカーの新品電池に交換してください。
□海外等へお出かけの際は、予備の電池をお持ちください。

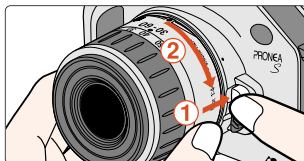
1.3 電源スイッチをONにして、バッテリーチェック表示 で電池容量を確認します。

・ （点灯）：電池の容量は充分です。
  （点灯）：電池容量はわずかです。予備の電池を準備してください（ファインダー内表示はシャッターボタンから指を離すと消灯します）。
  （点滅）：電池を交換してください（シャッターはきれません）。
・電源スイッチをONにして約5秒経過すると、表示パネルのシャッタースピードと絞り値、ファインダー内の表示が消灯します。

1.4 シャッターボタンの半押し操作と、半押しタイマーについて

・シャッターボタンを半押しする（軽く押す）と、半押しタイマーが作動して、表示パネルとファインダー内の表示が再点灯します。指を離してから約5秒経過するとこれらの表示は再度自動的に消灯します。

2

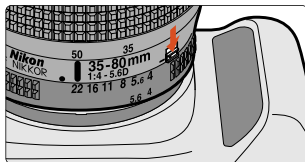
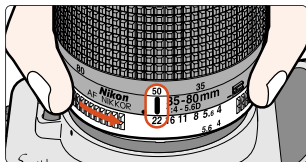
カメラにレンズを取り付けます。

電源スイッチをOFFにして、レンズを取り付けます。IXニッコール以外のCPU内蔵ニッコールレンズを取り付けた場合、絞りリングは常に最小絞り（最も数値の大きい絞り）にセットしたままにします。

2.1 電源スイッチをOFFにし、カメラにレンズを取り付けます。

- カメラとレンズの着脱指標を合わせて、レンズを矢印方向にカチッと音がするまで回します（レンズ取り外しボタンは押さないでください）。
- レンズが装着されていないときや、CPU内蔵ニッコール以外のレンズ（☞ P.37）を装着したときは、電源スイッチをONにすると表示パネルとファインダー内表示にF--が点滅して警告し、シャッターがきれません（露出モードがシャッター優先オート時は F--が点灯して、シャッターがきれます ☞ P.47）。

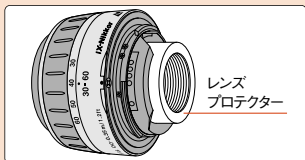
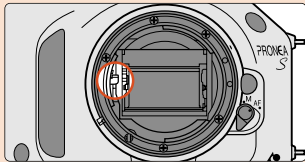
2.2 カメラからレンズを取り外すには

- レンズ取り外しボタンを押しながら、レンズを矢印方向に回して外します。
- カメラからレンズを長時間外しておくときは、付属のボディキャップ、または別売りのボディキャップBF-1Aを装着して、カメラの内部を保護してください（旧タイプのボディキャップBF-1は装着できません）。

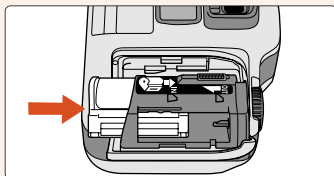
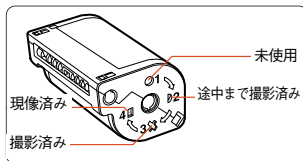
☑ここをチェックしましょう

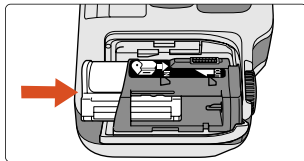
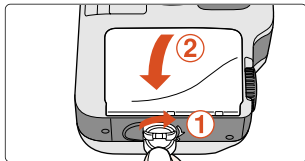
□できるだけ、IXニッコールかDタイプAFニッコールをご使用ください。このカメラの機能をフルに利用できます（P.36「このカメラに使用可能なレンズについて」をご覧ください）。
□レンズの着脱は、直射日光を避け、カメラやレンズが不用意に作動しないよう、カメラの電源スイッチをOFFにして行ってください。
□レンズ装着時は、レンズ取り外しボタンを押さないでください。

2.3 IXニッコール以外のCPU内蔵ニッコールレンズを取り付けた場合、絞りリングを最小絞りにセットして、ロックします。

・最小絞りにセットされていないときは、電源スイッチをONにすると表示パネルとファインダー内表示にFEEが点滅し、シャッターがきれません。
・焦点距離と画角の関係が35mm判カメラ使用時の場合と異なります（☞ P.38）。

☞ 注意 IXニッコールを取り付ける際のご注意

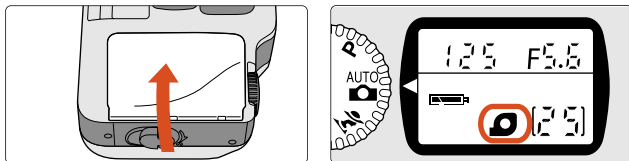
IXニッコールレンズを取り付ける際は、ボディ側の絞り連動レバーにレンズ後端のプロテクター部をぶつけないように注意してください。絞り連動レバーが変形すると正常な機能が発揮できなくなり作動不良の原因となります。

3 フィルムを入れましょう。

電源スイッチをONにし、カートリッジフィルムを入れて、カートリッジぶたを閉じると、自動的に1コマ目まで空送りされて、フィルム感度も自動設定されます（ISO25〜10000）。

3.1 カートリッジフィルムの使用状態マークを確認します。

・フィルムを装てんする前に、使用状態マークが ○（未使用）またはD（途中まで撮影済み）になっていることを必ず確認してください（☞ P.39）。

3.2 電源スイッチをONにし、カートリッジぶた開閉ノブを回転させてカートリッジぶたを開け、カートリッジフィルムを入れます。

・カートリッジぶた裏側のカートリッジホルダーに、カートリッジフィルムを下側から最後まで確実に押し入れて装てんします。

☑ここをチェックしましょう

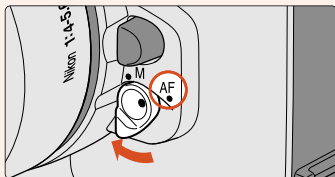
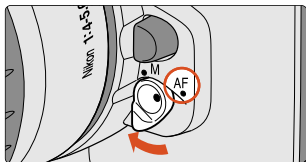
□このカメラはIX240カートリッジフィルム専用です。それ以外のフィルムは使用できませんのでご注意ください。
□フィルムを装てんする前に、使用状態マークを確認してください。また、途中まで撮影したフィルムの再装てんも行えます。詳細はP.41をご覧ください。
□フィルムが正しく装てんされたかどうかは、表示パネルで確認できます。
□屋外でフィルムを交換するときは、直射日光を避けてください。

3.3 カートリッジぶたをパチンと音がするまで静かに閉じると、フィルムが自動的に空送りされます。

・表示パネルにカートリッジ在中マークが点灯し、フィルムカウンターに撮影可能枚数が表示されると、フィルムの装てんは完了です。
・表示パネルにErrとが点滅している場合は、フィルムが正しく装てんされていないか、撮影済みのカートリッジフィルムが入っています。カートリッジぶたを開けてフィルムを装てんし直すか、新しいカートリッジフィルムを入れてください。
・フィルムの巻き戻しは、撮影フィルムが終了すると自動的に行われます（☞ P.31）。

☞ 注意　カートリッジぶたを閉じる際のご注意

フィルム装てん時、カートリッジぶたを勢いよく閉めますと、内部機構の破損などにつながる恐れがありますので、ゆっくりと静かに閉じてください。

4 フォーカスモード切り換えダイヤルをAFにセットします。

フォーカスモード切り換えダイヤルをAF（オートフォーカス）にセットすれば、ピント合わせはカメラまかせで撮影が行えます。

4.1 フォーカスモード切り換えダイヤルをAF（オートフォーカス）にセットします。

・フォーカスモード切り換えダイヤルの操作は、カチッと音がするまで確実に行ってください。
・ピントを合わせるときは、シャッターボタンの半押しを続けてください（☞ P.29）。

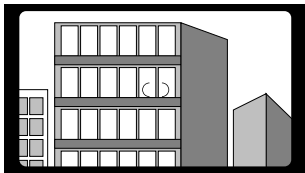
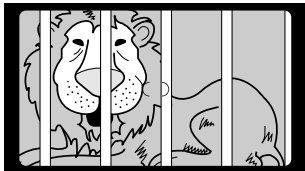
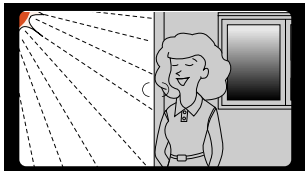
4.2 オートフォーカスが苦手な被写体について

・次ページのような被写体は、オートフォーカスが苦手な被写体です。このような場合は、おおよそ同じ距離の被写体にピントを合わせて、フォーカスロック（☞ P.44）を行い、そのまま構図を元に戻して撮影します。
・フォーカスロックが行えない場合は、フォーカスモード切り換えダイヤルをM（マニュアルフォーカス ☞ P.43）にセットして、マニュアルでピントを合わせます。

☑ここをチェックしましょう

□フォーカスモードをAF（オートフォーカス）にセットしたときは、レンズの距離リングは手で回さないでください。

□AF（オートフォーカス）にセットすると、ピントが合っていない時はシャッターはきれません。フォーカスモードの詳細はP.42をご覧ください。

明暗差がはっきりしない場合（白壁や背景と同色の服をきている人物等）

連続した繰り返しパターンの被写体（ビルの窓等）

フォーカスフレーム内に遠いものと近いものが混在する被写体（オリの中の動物や木の前の人物等）

フォーカスフレーム内の被写体の輝度差が著しく異なる場合（太陽が背景に入った日陰の人物等）

5

露出モードダイヤルを[AUTO]にセットします。

露出モードダイヤルを[AUTO]（AUTOモード）にセットすれば、露出はカメラまかせで撮影が行えます。

5.1

露出モードダイヤルを[AUTO]（AUTOモード）にセットします。

・シャッターボタンを半押しすると、シャッタースピードと絞り値が表示パネルとファインダー内表示に再点灯します。

☑ここをチェックしましょう

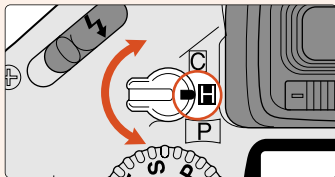
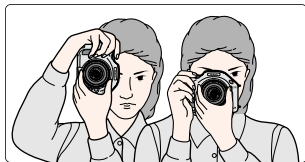
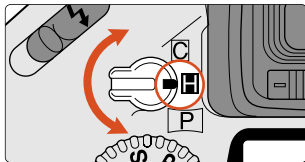
□このカメラには8種類の露出モードがあります。各露出モードの特長を活用すれば、被写体や撮影意図に合わせて効果的な撮影が行えます。その中でも、4種類のイメージプログラムでは、それぞれの状況に応じてカメラが最適な露出制御を行うので、簡単にいろいろな撮影が楽しめます。
各露出モードの特長は5.2を、撮影方法や詳細は各表示の下に表記された参照ページをご覧ください。

5.2 このカメラの露出モードについて

表示		名称	特長・こんな時に使用すると便利です。
AUTO P.45		AUTOモード	カメラが全て露出制御を行います。スナップなどシャッターチャンスを逃さずに、すぐに撮影したい時などに便利です。
P P.46		マルチプログラムオート	カメラが露出制御を行いますが、プログラムシフト（☞ P.51）や露出補正（☞ P.53）により、撮影者の意図も反映できます。
S P.47		シャッター優先オート	シャッタースピードをセットすれば、絞りはカメラが制御します。動きのある被写体を速いシャッタースピードで写し止めたり、遅いシャッタースピードで動きを強調したりすることが可能です。
A P.48		絞り優先オート	絞りをセットすれば、シャッタースピードはカメラが制御します。手前から奥まで鮮明に写す、背景をボカすなどの被写界深度（ピントの合う前後の範囲）を考慮した撮影に最適です。
イメージプログラム	P.50	ポートレートモード	被写界深度を浅くして（ピントの合う前後の範囲を狭くして）背景をきれいにボカし、立体感のある人物写真が撮影できます。
	P.50	風景モード	被写界深度を深くして（ピントの合う前後の範囲を広くして）、近景から遠景までピントを合わせた風景写真が撮影できます。
	P.50	クローズアップモード	被写界深度を浅くして被写体を浮き立たせ、背景に美しいボケが得られるクローズアップ写真が撮影できます。
	P.50	夜景モード	暗い被写体に適した露出制御により、夕景写真や夜景写真が撮影できます（夜景を背景に人物を撮影する際、スピードライトを使用すればその両方を自然に表現できます）。

6

プリントタイプを決め、カメラを構えて、ピントを合わせます。

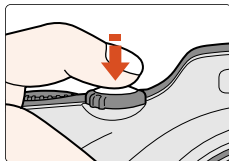
プリントタイプはH、P、Cタイプのいずれかが選択できます（☞ P.54）。
シャッターボタンの半押しを続けると、カメラがピント合わせを行い、ピントが合うとファインダー内のピント表示●が点灯します。

6.1 プリントタイプをセットして、カメラを正しく構えます。

- プリントタイプはH・P・C（縦横比それぞれ、9：16、1：3、2：3）のいずれかが選択できますが、ここではHタイプで説明を行っています。プリントタイプについての詳細はP.54をご覧ください。
- カメラを構える時は、わきを締め、ひじは軽く体につけ、片足を軽く踏み出して上半身を安定させます。右手はカメラのグリップを包みこむように持ち、左手はレンズを支えます。
- 撮影時に手ブレは禁物です。撮影時の目安として、シャッタースピードは「1／装着しているレンズの焦点距離」秒より高速になるようにこころがけてください（例：50mmレンズの場合は、1／50秒より高速になるように）。低速時は三脚のご使用をおすすめします。

☞ 注意　構図を決める際のご注意

このカメラのファインダーで確認できる範囲（ファインダー視野率）は、実際に撮影される画面の約87%です。したがって、ファインダーをのぞいて見た視野よりも、実際に撮影される画面は多少広くなります。また、実際に写真としてプリントされる範囲を100としたときのファインダーで確認できる範囲（プリント視野率）は約95%ですので注意してください。

☑ここをチェックしましょう

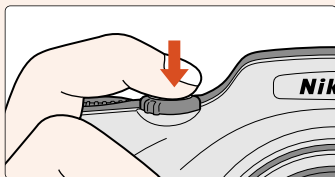
□ファインダー像がはっきりしない時は、視度調節（☞ P.64）を行ってください。ファインダー像が確認しやすくなります。
□主要被写体（ピントを合わせたいものや人物など）がフォーカスフレームから外れる場合は、「フォーカスロック撮影」（☞ P.44）を行ってください。
□プリント写真に日付や時刻（☞ P.55）、12カ国の言語で30種類のメッセージ（☞ P.58）を印字することができます。

6.2 およその構図を決め、シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせます。

・ピントを合わせたいものにフォーカスフレームを重ねてシャッターボタンの半押しを続けると、自動的にピントが合い、ファインダー内表示に次の表示が点灯します。

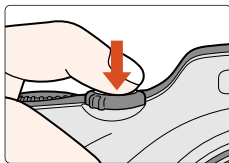
●点灯　被写体にピントが合うと点灯します。ただし、被写体が動いている時は、ピントが合っても点灯せず、シャッターがきれると同時に点灯する場合があります。
◀点灯　装着しているレンズの最短撮影距離より、被写体に近づきすぎているときに点灯します。
▶◀点滅　オートフォーカスでピント合わせができないときに点滅します。

被写体が暗い場合は、AF補助光を自動的に照射してピント合わせを行います。ピント合わせについての詳細は、P.42をご覧ください。
・ピントを合わせたいものがフォーカスフレームから外れる場合は、「フォーカスロック撮影」（☞ P.44）を行ってください。
・オートフォーカスが苦手な被写体については、P.24をご覧ください。

7 ファインダー内表示を確認して、シャッターをきります。

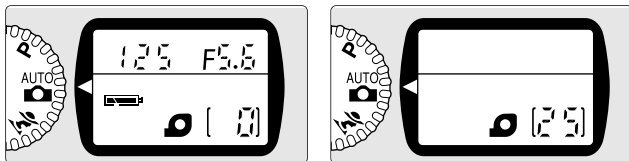
ピント表示●を確認し、シャッターボタンをゆっくりと深く押して、シャッターをきってください。被写体が動いている時は、P.42をご覧ください。

7.1 シャッターボタンを半押しし、ファインダー内の表示を確認します。

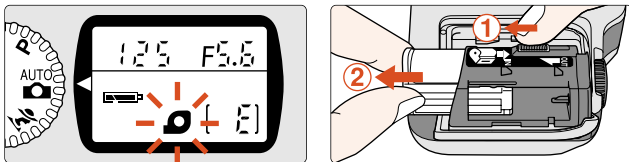
- ファインダー内表示にスピードライト推奨マーク ϟが点滅した場合は、内蔵スピードライトをご使用ください（☞ P.32）。
- 表示パネルやファインダー内表示に警告が行われた場合は、P.76を参考に対応してください。

7.2 ピント表示 ●の点灯を確認して、静かにシャッターボタンを押し込みます。

- シャッターをきるとフィルムは自動的に1コマ巻き上げられ、次の撮影の準備が完了します。

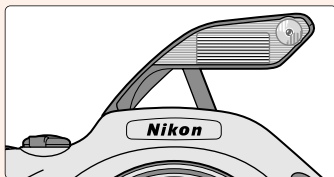
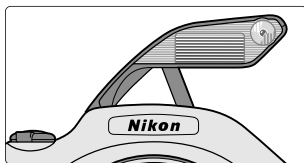
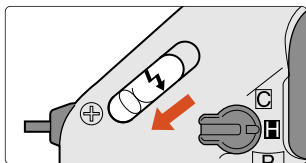
☑ここをチェックしましょう

□ファインダー内表示でピントと露出の確認ができます。警告が行われた場合、P.76を参考に対応してください。
□フィルムは、最後のコマが撮影されると自動的に巻き戻されます。
□フィルムの途中巻き戻しについては、P.40をご覧ください。
□セルフタイマー撮影やリモコン撮影に関しては、P.61〜63をご覧ください。
□フィルムの現像、プリントを依頼する場合は、P.9をご覧ください。

7.3 フィルムは、最後のコマが撮影されると自動的に巻き戻されます。

・フィルムカウンターの表示はいったん「0」となってから「装てんフィルムの規定枚数（40/25/15）」に変わり、カウントダウンが開始します。
・巻き戻し中に磁気記録を行いますので、ショックを与えたり低温下で消耗した電池を使用して巻き戻しを行わないでください（☞ P.40/57/60）。

7.4 巻き戻しの完了を確認して、カートリッジフィルムを取り出します。

・表示パネルのが点灯から点滅に変わり、Eが点灯すると巻き戻しは完了です。カートリッジぶたを開け、カートリッジホルダーのレバーを静かにスライドさせ、カートリッジフィルムを取り出してください。巻き戻し完了後に、カートリッジフィルムを取り出さないままシャッターボタンを押すと、表示が点滅して警告します。
・取り出す際は、カートリッジフィルムの落下に注意してください。

8 内蔵スピードライトを使ってみましょう。

シャッターボタンを半押ししたときファインダー内表示にスピードライト推奨マーク⚡が点滅した場合は、内蔵スピードライトを使ってみましょう。

8.1 スピードライトロック解除レバーをスライドさせてスピードライトを上げます。

- スピードライトを上げると充電が開始され、完了するとファインダー内にレディライト ⚡ が点灯します（半押しタイマー作動中）。
- スピードライトを収納するときは、カチッと音がするまで手で軽く押し下げます（使用しないときは、電池の消耗を防ぐため、常に収納状態にしてください）。

要点　TTL-BL調光について

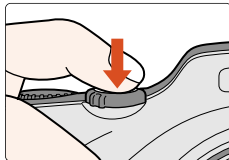
マルチパターン測光で得た明るさの情報をもとに、主要被写体と背景の露出を考慮して、スピードライトの発光量をバランスよくコントロールします（詳細についてはP.65をご覧ください）。

注意　内蔵スピードライトの連続使用について

内蔵スピードライトを連続的に使用すると、スピードライトを保護するため一時的に発光が制限されます。少し時間をおくと発光可能になります。

☑ここをチェックしましょう

□内蔵スピードライトはガイドナンバー16（ISO200・m）、撮影距離1m以上で24mmレンズの画角をカバーします。
□CPU内蔵ニッコールレンズを使用すれば、TTL-BL調光が行われますので、簡単にスピードライト撮影が楽しめます（☞ P.65）。
□スピードライト使用時は、レンズフードを取り外して（または収納して）ください。また、一部のズームレンズではケラレが発生します（☞ P.68）。

8.2 ファインダー内にレディライト ϟ が点灯していることを確認し、構図を決め、ピントを合わせて撮影します。

・シャッターをきった後レディライト ϟ が約3秒間点滅した場合は、フル発光して露出不足の恐れがあります。調光範囲（光の届く範囲・☞ P.69）を再確認して、撮影をし直してください。
・ここで説明しているのは「ノーマルシンクロモード」による撮影方法ですが、他にも人物の目が赤く写るのを軽減させる「赤目軽減モード」や、背景の夜景や夕景の雰囲気を生かした「スローシンクロモード」などによる撮影方法もあります。詳細についてはP.65をご覧ください
・被写体が暗い場合は0.5〜3mの範囲で、自動的にAF補助光（☞ P.42）を照射してピント合わせを行います。

コラム：ピントと露出の豆知識

ピントと露出、そして測光は写真撮影の重要なポイント。それぞれの特徴を知っておくことによって、表現の幅を広げることができます。

ピント（フォーカス）／被写界深度

ある一点にピントを合わせると、その前後にもピントの合う範囲があります。このピントの合う範囲を被写界深度といい、撮影距離、レンズの焦点距離、絞りなどによって変化します。特にレンズの絞りは、絞る（大きい数値にする）とピントの合う範囲が前後に広くなり、これを被写界深度が深いといいます。逆にレンズの絞りを開く（小さい数値にする）とピントの合う範囲が前後に狭くなり、これを被写界深度が浅いといいます（☞ P.42）。

露出（露光）

被写体（写したい対象物）をカメラのレンズを通してフィルムに感光させて記録することを露出（露光）といいます。この時、被写体の明るさとフィルムの感度に合わせ、シャッタースピードと絞りを調節して、フィルムに最適な光（適正露出）を与えることが大切です。

このカメラは適正露出を得るため、シャッタースピードと絞りの両方をカメラが決める「AUTO・マルチプログラムオート・イメージプログラム」、シャッタースピードを撮影者自身がセットすれば絞りはカメラが決める「シャッター優先オート」、絞りを撮影者自身がセットすればシャッタースピードはカメラが決める「絞り優先オート」という露出モードを備えています（☞ P.45〜50）。

測光

撮影しようとする被写体（写したい対象物）の明るさを測ることを測光といいます。測光は露出（露光）を決める時の重要な情報源で、これによりフィルムに最適な光（適正露出）を与えるシャッタースピードと絞りの組み合わせが決定されます。

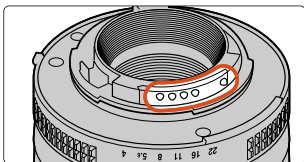
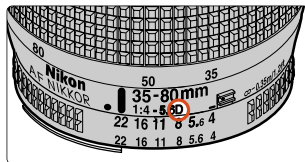
通常、被写体の含まれる撮影画面内の明るさが必ずしも一様ではないため、プロネアSでは画面を6分割して、それぞれの部分を独立して測光した情報を利用して適正露出を決める「マルチパターン測光」という測光モードを備えています（☞ P.51）。

なお、IXニッコールやDタイプAFニッコールを装着すると、さらに距離情報を加味した「3D-6分割マルチパターン測光」となります（☞ P.51）。

操作の詳細

このカメラの各機能をレンズ、フィルム、
ピント、露出、その他の機能の順に
詳細に説明しています。

このカメラに使用可能なレンズについて

このカメラには、CPU内蔵ニッコールをご使用ください。特に、IXニッコールレンズやDタイプAFニッコールレンズを装着すれば、全ての機能が使用できます。

CPU内蔵ニッコールレンズには
CPU信号接点があります。

DタイプAFニッコールの
見分け方

CPU内蔵ニッコールの種類と使用できるその他のレンズについて

	モード / レンズ	フォーカスモード：オートフォーカス	フォーカスモード：フォーカスエイド	フォーカスモード：マニュアル	露出モード：AUTO・P・S・A	測光モード：マルチパターン測光 3D-6分割	測光モード：マルチパターン測光 6分割
CPU内蔵ニッコール	IXニッコールレンズ DタイプAFレンズ AF-S、AF-Iレンズ AF-Iテレコンバーター※1	○	○	○	○	○	—
CPU内蔵ニッコール	Dタイプ以外のAFニッコール（F3AF用を除く）	○	○	○	○	—	○
CPU内蔵ニッコール	Ai-Pニッコール	—	○※2	○	○	—	○
	CPU内蔵ニッコール以外のレンズ	—	○※2	○	○※3	—	—

※1. AF-Iテレコンバーター使用時はレンズ側を必ず最小絞りにセットしてください（最小絞り警告FEEが表示されませんので注意してください）。

※2. 開放F値がf/5.6以上明るい場合のみ使用可能。

※3. CPU内蔵ニッコール以外のレンズでは、露出モードをS（シャッター優先オート）にセットして使用します。ただし、シャッタースピードも絞りも撮影者自身がセットする必要があります（撮影方法は次のページをご覧ください）。

CPU内蔵ニッコール以外のレンズ装着時には

・使用可能な露出モードには制限があります。
CPU内蔵ニッコール以外のレンズでは、露出モードをS（シャッター優先オート）にセットして使用します。ただし、シャッタースピードも絞りも撮影者自身がセットする必要があります。また、カメラの露出計は作動しません。絞りのセットはレンズの絞りリングで行ってください（表示パネルとファインダー内表示の絞り表示は、F--が点灯します）。

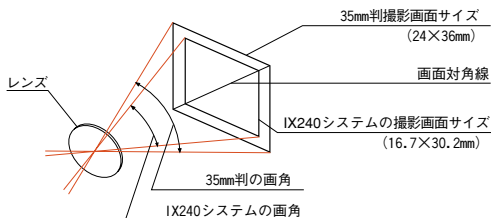
☞ 注意　使用できないCPU内蔵ニッコール以外のレンズについて

下記のCPU内蔵ニッコール以外のレンズは使用できません。無理に装着しようとすると、カメラやレンズを破損しますので注意してください。

- AFテレコンバーターTC-16AS
- Ai改造をしてないニッコールレンズ（Ai方式以前の連動爪を使用するタイプ）
- フォーカシングユニットAU-1を必要とするレンズ（400mm f/4.5　600mm f/5.6）
- フィッシュアイ（6mm f/5.6　OP10mm f/5.6）
- ED180～600mm f/8（No.174166以前の製品）
- ED360～1200mm f/11（No.174087以前の製品）
- 200～600mm f/9.5（No.300490以前の製品）
- F3AF用（80mm f/2.8　200mm f/3.5　テレコンバーターTC-16S）
- PC28mm f/4（No.180900以前の製品）
- PC35mm f/2.8（No.906200以前の製品）
- レフレックス1000mm f/11（製品No.142361～143000）
- レフレックス2000mm f/11（No.200310以前の製品）
- メディカルニッコール120mm f/4
- メディカルニッコール200mm f/5.6

・三脚座の付いたレンズをご使用になる場合は、必ずレンズ側を保持してください。

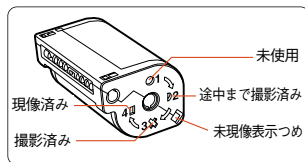
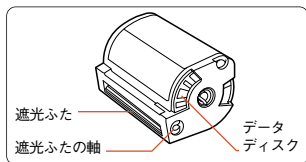
レンズの焦点距離と画角について

35mm判カメラの撮影画面サイズは24×36mmですが、IX240システムカメラは16.7×30.2mmです。このように、IX240システムカメラと35mm判カメラでは、画面サイズが異なりますので、同じ焦点距離のレンズを使用して同じ距離から撮影した場合でも、画角（フィルム面に写し込む被写体の大きさや写り込む範囲）が変化します。

・IX240システムカメラの撮影画面サイズは、対角線の長さで35mm判カメラの約0.8倍です。従って、35mm判用レンズの焦点距離に0.8を掛けた値がIX240システムカメラの焦点距離に相当し、IX240システム用レンズの焦点距離に1.25を掛けた値が35mm判用レンズの焦点距離に相当し画角が同じになります。
・IX240システム用レンズと35mm判用レンズでほぼ同じ画角が得られる焦点距離を表にした「**焦点距離の換算表**」を参考にしてください。

焦点距離の換算表（Hタイプの場合）　（単位：mm）

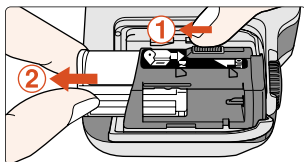
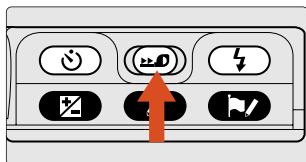
IX240システムレンズ	19	20	22	24	28	30	40	48	56
35mm判レンズ	24	25	28	30	35	37.5	50	60	70

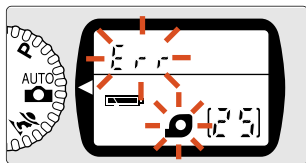
IX240システムレンズ	60	68	70	84	108	144	160	180
35mm判レンズ	75	85	87.5	105	135	180	200	225

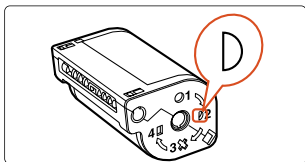
IX240カートリッジフィルムについて

- このカメラには従来の35mmフィルムは使用できません。
- IX240カートリッジフィルムには、40枚・25枚・15枚撮りの3種類のフィルムがあります。
- フィルムの先端部分はカートリッジ内に収納されていますが、カメラに装てんすると自動的に引き出されて撮影可能な状態になります。
- IX240カートリッジフィルムは、カートリッジの側面に4段階のマークがついており、このマークによりそのフィルムの使用状態が確認できます。フィルムを装てんする前に、使用状態マークが ○（未使用）または ◗（途中まで撮影済み）になっていることを必ず確認してください。

注意　IX240カートリッジフィルムの取り扱い上のご注意

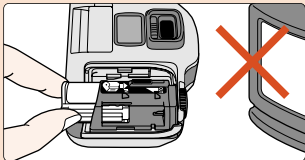
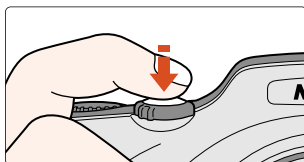
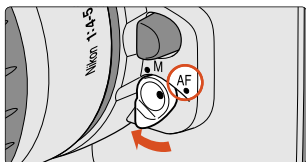
- カートリッジフィルムは精密に作られています。分解したり激しいショックや振動を与えないでください。また、データディスクに触れないでください。いずれの場合も撮影や現像ができなくなるおそれがあります。
- 未現像表示つめを折らないでください。現像やプリントに支障をきたすおそれがあります。もし折れた場合はフィルム店にご相談ください。
- 遮光ふたや遮光ふたの軸をドライバー等で押さないでください。フィルムが感光して撮影や現像ができなくなることや、使用状態の確認ができなくなることがあります。
- 冷蔵庫などの低温下に保管していたカートリッジフィルムは、取り出してすぐにカメラに装てんしないでください。データディスク部が結露して使用状態の確認ができなくなることがあります。
- 次のような場所にカートリッジフィルムを保管しないでください。撮影や現像ができなくなります。
  1.直射日光の当たるところや暖房器具のそば　2.ちりやほこりの多いところ
  3.湿度の高いところ　4.強い磁気の発生するところ（モーター、トランスのそば）

フィルムの途中巻き戻しについて

- 撮影途中でフィルムを巻き戻す場合は、途中巻き戻しボタン を0.5秒以上一度押してください。巻き戻しが開始されます。表示パネルに が点滅し、E が点灯すると巻き戻しは完了です。カートリッジぶたを開けてフィルムを取り出してください(☞P.31)。
- 撮影途中でフィルムを巻き戻す際にも、通常のフィルム巻き戻し時と同様に巻き戻し中に磁気記録を行いますので、ショックを与えないでください。

フィルムの巻き戻しが行われない場合

- 電池容量が極端に低下している場合や低温時には、表示パネルに とErrが点滅して、フィルムの自動巻き戻しが行われなかったり、巻き戻し途中でモーターが停止したりすることがあります。このような時は、いったん電源スイッチをOFFにして電池を交換した後、電源スイッチをONにすれば再び巻き戻しが開始されます。ただしこの場合、巻き戻しは行われますが、正常な巻き戻しが行われなかったと判断され、Err、PRINT、- -が点滅して、磁気による各種データのフィルムへの書き込みは行われません。

撮影途中に巻き戻しを行ったカートリッジフィルムの再装てんについて

・このカメラには、MRC（Mid-Roll Change：カートリッジ途中交換）機能がついています。撮影途中でいったん巻き戻して取り出したフィルムを再装てんすると、撮影済みのコマは自動的に送られて残りのコマの撮影が行えます。
・フィルムを再装てんする前に、使用状態マークがD（途中まで撮影済み）になっていることを必ず確認してください。
・このカメラと相互にフィルムの途中交換ができるニコンカメラには、プロネア600iとニュービス160iがあります。

注意　撮影途中のカートリッジフィルムを再装てんする際のご注意

・撮影途中のカートリッジフィルムを再装てんする際は強い磁気、電磁波を発生しているところ（テレビ、パソコンのディスプレイ、スピーカー、扇風機などの回転中のモーター、高周波点灯［インバータ］蛍光灯）の近くは避けて行ってください。装てんする際に、有害な電磁波を検知した時は、空送りは行いません。また、撮影済みのコマの空送り中に有害な電磁波を検知した場合も、空送りを中止し巻き戻しを行います。この場合、電源スイッチをいったんOFFにしてONにし直すか、カートリッジフィルムを入れ直すと再び空送りが行われます（ただし、この操作を行う場合も電磁波の発生する場所を避けてください）。

AF（オートフォーカス）にセットした場合

・フォーカスモード切り換えダイヤルをAFにセットし、シャッターボタンの半押しを続けると、カメラが自動的に被写体にピントを合わせ、ファインダー内表示のピント表示 ●が点灯して、合焦状態であることを知らせます。

オートAFサーボ（AF-A）：
被写体が静止しているか移動しているか、および移動の方向をカメラが判断し、状況に合わせてシングルAFサーボ（AF-S）かコンティニュアスAFサーボ（AF-C）のどちらかをカメラが自動的に選択します。

・シングルAFサーボ（AF-S）：
ピントが被写体に合うと、そこで固定（フォーカスロック）されます。

・コンティニュアスAFサーボ（AF-C）：
被写体の動きに合わせ、ピントを追い続けます。

・いずれの場合もピント表示●が点灯している時にシャッターをきることができます。ただし、移動している被写体を追い続けている時は、ピント表示●が点灯していなくても被写体にピントが合っていればシャッターをきることができます。この場合は、シャッターがきれると同時にピント表示●が点灯します。

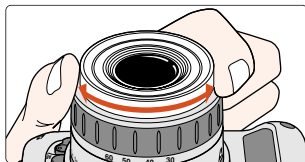
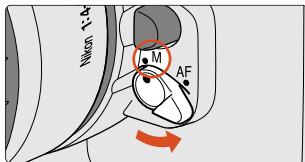
AF補助光について

・被写体が暗い場合でも、シャッターボタンを半押しすると自動的にAF補助光を照射し、被写体を照らしてオートフォーカスでのピント合わせが可能となります。照射が行われる条件は次のとおりです。

1.フォーカスモードがAFでAFニッコールを装着し、被写体が暗い時。
2.露出モードが風景モード以外の時。
これらの条件を満たしている時に自動的に照射を行います。キャンセルはできません。使用可能なAFニッコールレンズの焦点距離は、22〜180mmまで、AF補助光が届く範囲の目安としては、スピードライトを上げた状態で0.5〜3m、収納した状態で0.5〜2mとなります。

注意　AF補助光の連続使用について

AF補助光を連続的に使用すると、照射ランプを保護するため一時的に照射が制限されます。少し時間をおくと照射可能になります。

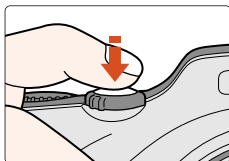
M（マニュアルフォーカス）にセットした場合

・フォーカスモード切り換えダイヤルをMにセットし、レンズの距離リングを回して、ファインダースクリーンのマット面の像がはっきり見えるようにピントを合わせます。ピント表示●の点灯、消灯にかかわらずシャッターをきることができます。
マニュアルフォーカスは、オートフォーカスが苦手な被写体（☞ P.24）や、AFニッコール以外のレンズ（☞ P.36）を装着しているときにご使用ください。

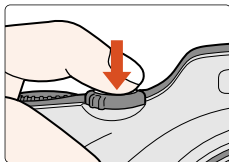
要点　フォーカスエイドについて

フォーカスモードをM（マニュアルフォーカス）にセットしたとき、開放絞り値がf/5.6より明るいレンズを装着すると、ファインダー内表示のピント表示によって合焦状態を確認できる「フォーカスエイドによるピント合わせ」が行えます。シャッターボタンを半押しして半押しタイマーが作動中にレンズの距離リングを回してピント表示●を点灯させます。シャッターはいつでもきることができます。

フォーカスロック撮影

■AF（オートフォーカス）でピントを合わせる場合、主要被写体（ピントを合わせたいものや人物など）がフォーカスフレームから外れる構図の時に使用します。また、オートフォーカスが苦手な被写体（☞ P.24）にも有効です。

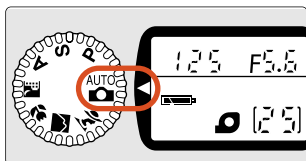
1 ピントを合わせたいものにフォーカスフレームを重ねて、シャッターボタンを半押しします。

・ピントが合うとピント表示 ●が点灯して、シャッターボタンの半押し中はピントがそのまま固定されます。
・移動していた被写体が静止した場合（コンティニュアスAFサーボからシングルAFサーボに切り換わった場合）にフォーカスロックを行うときは、一度シャッターボタンから指を離して、半押しし直してください。

2 ピント表示 ●が点灯したら、シャッターボタンを半押ししたまま、構図を決めて撮影します。

・ピント表示 ●の点灯後は、主要被写体との撮影距離を変えないでください。シャッターをきった後も指を離さず、半押し状態からさらにシャッターボタンを押し込めば、ピントを固定したまま何度でも撮影できます。

■AUTO：AUTO（オート）

もっとも簡単に撮影できる露出モードです。露出はカメラまかせで撮影できます。一眼レフを初めてお使いになる方におすすめの露出モードです。

他の機能との組み合わせはP.70をご覧ください。

1 露出モードダイヤルをAUTOにセットします。

・AUTO（AUTOモード）にセットすると、シンクロモードは自動的にノーマルシンクロモードとなります。なお、プログラムシフト、露出補正、スローシンクロはセットできません。

2 ピント表示●の点灯を確認して、撮影します。

・次の警告が表示パネルやファインダー内表示に点灯した場合、被写体が明るすぎたり暗すぎたりして、カメラの制御範囲を超えています。

・HI：ND（光量調節用）フィルターを使用してください。

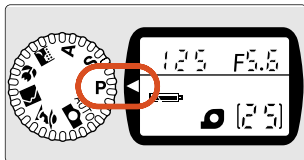
・Lo：スピードライトを使用してください。

要点 AUTO（オート）とマルチプログラムオートの違いについて

露出制御方法は同じですが、マルチプログラムオートでは、さらにプログラムシフト（☞P.51）、露出補正（☞P.53）、スローシンクロ（☞P.65）がセットできますので、撮影状況に対してより柔軟に対応することが可能です。

P：マルチプログラムオート

撮影状況に応じて、最適露出となるようカメラが自動的に露出制御を行います。プログラムシフト（☞ P.51）や露出補正（☞ P.53）などの併用により、高度な撮影も楽しめます。
他の機能との組み合わせはP.70をご覧ください。

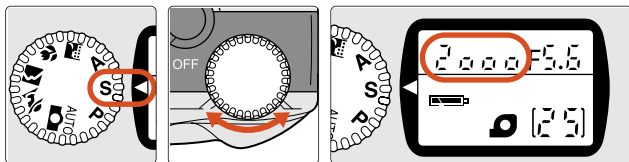
1 露出モードダイヤルを**P**にセットします。

2 ピント表示●の点灯を確認して、撮影します。

- マルチプログラムオートでは、露出を一定にしたままシャッタースピードと絞りの組み合わせを変えることができる、「プログラムシフト」（☞ P.51）が行えます。
- 次の警告が表示パネルやファインダー内表示に点灯した場合、被写体が明るすぎたり暗すぎたりして、カメラの制御範囲を超えています。
  - HI：ND（光量調節用）フィルターを使用してください。
  - Lo：スピードライトを使用してください。

S：シャッター優先オート

撮影者がシャッタースピード（30秒〜1/2000秒）をセットすれば、絞りはカメラが自動制御します。スポーツシーンの撮影など被写体の一瞬の動きを速いシャッタースピードで写し止めたり、遅いシャッタースピードで被写体の動きを強調するなど、シャッタースピードを重視した撮影に最適です。

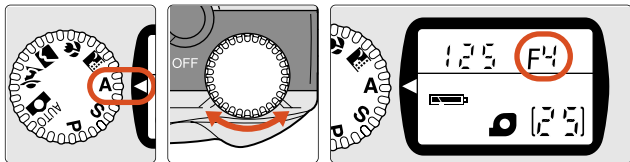
他の機能との組み合わせはP.70をご覧ください。

1 露出モードダイヤルを**S**にセットして、コマンドダイヤルでシャッタースピード（30秒〜1/2000秒）をセットします。

2 ピント表示●の点灯を確認して、撮影します。

- 次の警告が表示パネルやファインダー内表示に点灯した場合、被写体が明るすぎたり暗すぎたりして、カメラの制御範囲を超えています。
  - HI：シャッタースピードをより高速側にセットし、それでも警告表示が消えないときは、ND（光量調節用）フィルターを使用してください。
  - Lo：シャッタースピードをより低速側にセットし、それでも警告表示が消えないときは、スピードライトを使用してください。
- CPU内蔵ニッコール以外のレンズはこのモードでのみ使用できます。ただし、シャッタースピードも絞りも撮影者自身がセットする必要があります。また、カメラの露出計は作動しません。絞りのセットはレンズの絞りリングで行ってください（表示パネルやファインダー内の絞り表示にF--が点灯します）。
- シャッタースピードをbulb（点滅）にセットすると、長時間露出（バルブ／タイム）撮影が行えます。詳細はP.52／P.63をご覧ください。

A：絞り優先オート

撮影者が絞り値（最小絞り〜開放絞り）をセットすれば、シャッタースピードはカメラが自動制御します。手前から奥まで鮮明に写す、背景をボカすなど、被写界深度（ピントの合う前後の範囲）を優先した撮影に最適です。また、スピードライト撮影時には、絞り値を変えることにより、調光範囲の変更も行えます（☞ P.69）。
他の機能との組み合わせはP.70をご覧ください。

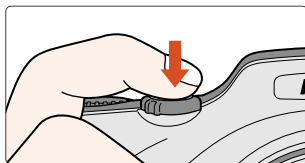
1 露出モードダイヤルを**A**にセットして、コマンドダイヤルで絞り（最小絞り〜開放絞り）をセットします。

2 ピント表示●の点灯を確認して、撮影します。

- 次の警告が表示パネルやファインダー内表示に点灯した場合、被写体が明るすぎたり暗すぎたりして、カメラの制御範囲を超えています。
  - HI：より大きい数値の絞り値にし、それでも警告表示が消えないときは、ND（光量調節用）フィルターを使用してください。
  - Lo：より小さい数値の絞り値にし、それでも警告表示が消えないときは、スピードライトを使用してください。
- 長時間露出（バルブ／タイム）撮影を行う場合、絞りは露出モードダイヤルをA（絞り優先オート）にセットして行います。詳細はP.52／P.63をご覧ください。

■イメージプログラムとは

イメージプログラムでは、被写体や撮影シーンに合わせて、効果的なシャッタースピードと絞り値を制御するプログラムがモードごとに用意されており、イメージに近い写真をより簡単に撮影できます。
他の機能との組み合わせはP.70をご覧ください。

■イメージプログラムの撮影方法

露出モードダイヤルを希望するイメージプログラム表示にセットし、ピント表示●の点灯を確認して、撮影します。

・次の警告が表示パネルやファインダー内表示に点灯した場合、被写体が明るすぎたり暗すぎたりして、カメラの制御範囲を超えています。

・HI：ND（光量調節用）フィルターを使用してください。
・Lo：スピードライトを使用してください。

注意　各イメージプログラム撮影時の注意点

・ポートレート以外のモードでは撮影状況によって、シャッタースピードが遅くなりますので、手ブレに注意してください（三脚のご使用をおすすめします）。

イメージプログラムの種類と特長

：ポートレートモード

絞りを開放絞り（小さい数値）気味に設定した露出制御により、被写界深度を浅くして（ピントの合う前後の範囲を狭くして）背景をきれいにボカし、被写体の人物を浮き立たせた立体感のある写真が撮影できます。
おすすめのレンズ：85mm〜200mm程度の明るい望遠レンズが効果的です。

：風景モード

絞りを最小絞り（大きい数値）気味に設定した露出制御により、被写界深度を深くして（ピントの合う前後の範囲を広くして）、近景から遠景までピントの合った風景写真が撮影できます。
広角から望遠レンズまで使用可能です。

：クローズアップモード

絞りを開放側に設定した露出制御により、被写界深度を比較的浅くして被写体を浮き立たせ、背景に美しいボケが得られるクローズアップ写真が撮影できます。
おすすめのレンズ：マイクロニッコールレンズが効果的です。

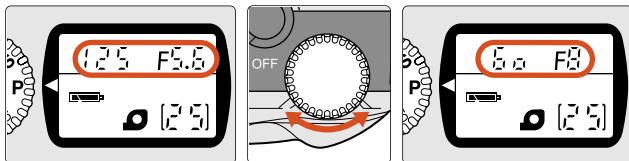
：夜景モード

暗い被写体に適した露出制御により、美しい夕景写真や夜景写真が撮影できます。また、夜景を背景に人物を撮影する際、スピードライトを使用すれば、その両方を自然に表現できます。
広角から望遠レンズまで使用可能です。

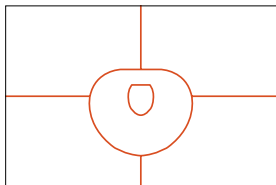
プログラムシフト／測光方式について

■プログラムシフトについて

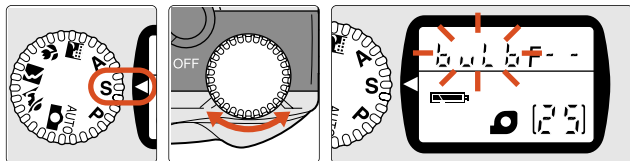
マルチプログラムオートやイメージプログラムで撮影中にコマンドダイヤルを回すと、露出を一定にしたままシャッタースピードと絞り値の組み合わせを変えることができ、シャッター優先オートや絞り優先オートのような使い方ができます。

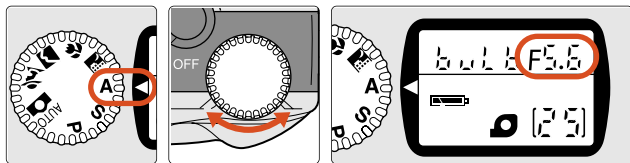
露出モードを**P**または、、、にセットし、コマンドダイヤルを回して、希望するシャッタースピードと絞りの組み合わせを表示させて、構図を決め、ピントを合わせて撮影します。

・解除は、他の露出モードに切り換える、電源スイッチをOFFにする、内蔵スピードライトを使用する（☞ P.65）などで行えます。

■マルチパターン測光・3D-6分割マルチパターン測光について

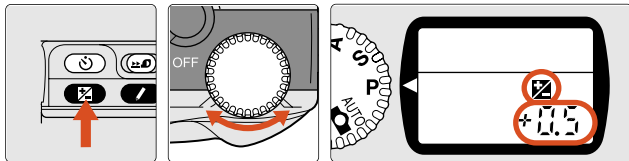
撮影画面を図のように6分割して、それぞれの部分を独立して測光した情報に基づいて最適な露出値を決定します。さらにIXニッコールレンズ、DタイプAFニッコールレンズを装着した場合には、画面内の最大輝度、輝度差情報、レンズから被写体までの距離情報を加味し測光の精度を高めた3D-6分割マルチパターン測光となります。

長時間露出（バルブ）撮影

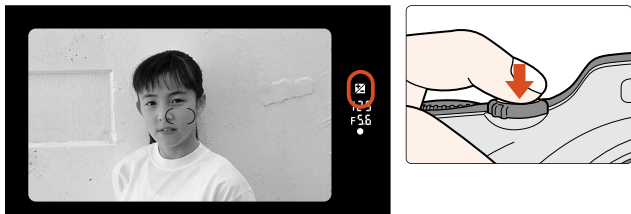
■長時間露出は夜景や天体撮影など、シャッタースピードが30秒を超える場合に使用します。シャッターボタンを押している間、シャッターは開いたままになります（三脚のご使用をおすすめします）。

1 露出モードダイヤルを**S**にセットして、コマンドダイヤルでシャッタースピードをbulbにセットします。

・この時、bulb表示は点滅し、シャッターはきれません（CPU内蔵ニッコール使用時）。

2 露出モードダイヤルを**A**にセットし、コマンドダイヤルで絞りをセットして、構図を決め、ピントを合わせて撮影します。

・この状態でシャッターボタンを押すと、シャッターボタンを押している間シャッターが開いたままとなる、バルブ撮影になります。
・リモコン（☞ P.62）使用時には、送信ボタンを押すとシャッターが開いたままとなり再び押すとシャッターが閉じる、タイム撮影となります（☞ P.63）。
・連続撮影可能時間は、新品リチウム電池を使用して約2時間です。ただし、低温時には電池の性能が低下しますので短くなります。
・解除は、いったん露出モードダイヤルを**S**（シャッター優先オート）に戻して30秒より速いシャッタースピードにセットします。

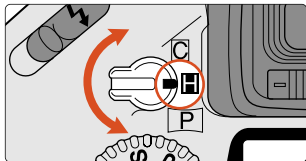
■露出補正とは、カメラが表示する適正露出値を意図的に変えることをいいます。たとえば、被写体にコントラストの高いものがある時、適正露出の決定が難しい時などに使用します。このカメラでは、1/2段ステップで±2段の露出補正が行えます（ただし、AUTOモードでは露出補正は行えません）。

1 露出補正ボタン⊠を押しながら、コマンドダイヤルで、補正量をセットします。

・補正量をセットすると、表示パネルとファインダー内表示に露出補正マーク⊠が点灯し、補正量の確認は露出補正ボタン⊠を押すだけで行えます。
・スピードライト使用時は、スピードライト側の発光量も同じ量だけ調光補正が行われます。
・補正の目安としては、被写体（たとえば人物など）に対して、背景が明るい場合は＋側に、背景が暗い場合は－側に補正するのが基本です。

2 構図を決め、ピントを合わせて撮影します。

・**P**、**S**、**A**モードでセットした露出補正を解除するには、**P**、**S**、**A**モードで露出補正ボタン⊠を押しながら、コマンドダイヤルで補正量を0にセットしてください。イメージプログラムモードでセットした露出補正は、露出モードを変更すれば解除できます。いずれの場合も、電源スイッチをOFFにしても解除されません。

プリントタイプについて

■プリントタイプはH・P・Cタイプのいずれかが選択できます。ワイドな縦横比9：16のH（ハイビジョンワイド）タイプ、縦横比1：3のP（パノラマ）タイプ、そして従来の縦横比2：3のC（クラシック）タイプがあり、いろいろなサイズでの撮影が楽しめます。

1 プリントタイプ切り換えレバーで、プリントタイプをセットします。

・プリントタイプ切り換えレバーを操作すると、ファインダー内の撮影フレームも切り換わります。

・各プリントタイプの作例写真につきましては、P.8の「アドバンストフォトシステムについて」をご覧ください。

2 構図を決め、ピントを合わせて撮影します。

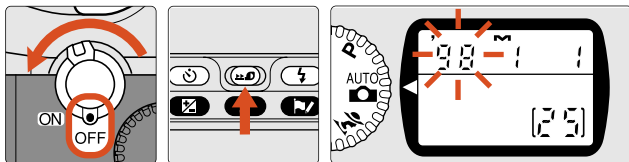
☞ 注意　プリントタイプを切り換える際のご注意

ファインダーをのぞきながら、プリントタイプ切り換えレバーを操作しないでください。指先やつめで目などを突くと、ケガの原因となります。

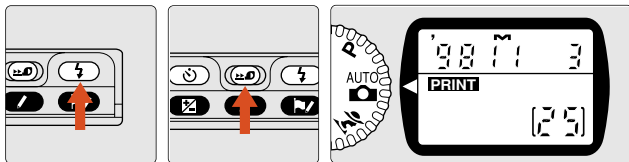
日付・時刻の合わせ方と印字について

■このカメラは、「年　月　日」・「時　分（24時間制）」・「月　日　年」・「日　月　年」のいずれかをプリントに印字することが可能です（どの露出モードでもプリントに印字は行えます）。

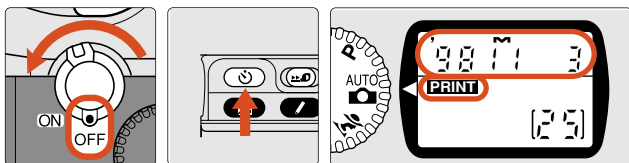
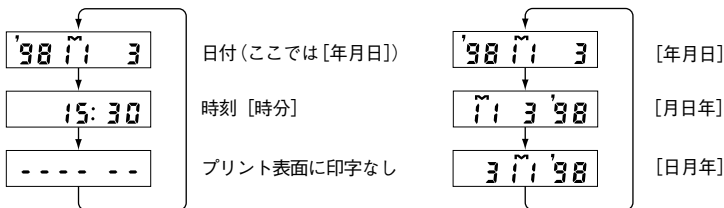
日付と時刻の合わせ方

1 電源スイッチをOFFにし、SELECTボタンを押して修正する数字を点滅させます。

・SELECTボタンを押すごとに、年→月→日→時→分の順に数字が点滅します。

> **要点　電池交換とデート機能について**
>
> カメラの電池はデート機能の電源も兼ねています。電池を交換する際（☞ P.18）、電池を抜いた状態が約5分を超えるとリセットされ、電池を入れても00 00　00表示となりますので、SELECTボタンを押して日付と時刻を合わせ直してください。

2 ADJUSTボタンを押して点滅している数字を修正し、修正前の表示状態に戻るまでSELECTボタンを押します。

・ADJUSTボタンを押し続けると早送りになり、年の数字は、98〜29の順に変化します。SELECTボタンを押し、分の数字の点滅が止まり修正前の表示状態に戻れば修正は完了です。

日付と時刻の印字方法

1 電源スイッチをOFFにし、DATEボタンを押して印字したいデータを表示させせます。

・DATEボタンを押すごとに表示は左下のように変化します。日付が表示されている状態では、DATEボタンを2秒以上押すごとに右下のように変化します。

・表示パネルに印字したいデータを表示させせると、データ記録マーク PRINT が点灯し、プリント表面と裏面に印字が行われます。
・表示パネルに「印字なし」の「---- --」を表示させせると、データ記録マーク PRINT は点灯しませんが、プリント裏面には印字が行われます。

注意　印字位置について

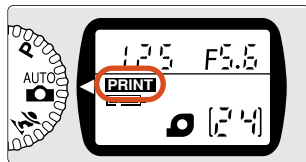
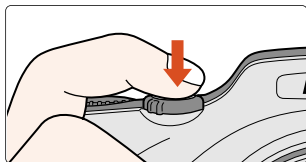
印字位置は、プリントタイプ（H・P・C）やフィルムの種類（カラーリバーサルフィルム使用時）によって変わります。くわしくは、現像・プリントを依頼される前に、認定ラボにお問い合わせください。

要点　プリントに印字される内容ついて

表示パネルにセットしたデータと、プリントに印字される内容の関係はつぎのとおりです。

表示パネル	プリント時の印字内容	
	プリントの表面	プリントの裏面
[年月日]	[年月日]	[年月日]
[月日年]	[月日年]	[月日年]
[日月年]	[日月年]	[日月年]
[時分]	[時分]	[時分]
- - - -　- -	印字なし	[年月日時分] ※

※ここでは［年月日］で説明していますが、日付は時分を選択する直前の順番（[年月日]、[月日年]、[日月年]のいずれか）となります。

2 電源スイッチをONにして、撮影を行えばプリント時にデータが印字されます。

・このカメラは、日付、時刻、タイトルなどの撮影データをフィルム巻き戻し時に磁気記録していますが、低温時に消耗した電池をご使用になりますと、フィルムの特性により正常な磁気記録が行われない場合があります。このため低温下を避けるか、電池の容量が十分であることを確認し、巻き戻しを行うことをおすすめします。

言語・タイトルのセットと印字について

■このカメラはカートリッジフィルムに12言語、30種類のタイトルを記録して、プリントの裏面に印字することができます。

選択できる言語の一覧表

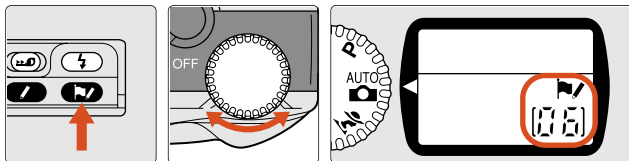
言語ナンバー	言語	言語ナンバー	言語
01	デンマーク語	08	ノルウェー語
02	フィンランド語	09	ポルトガル語
03	フランス語	10	スペイン語
04	ドイツ語	11	スウェーデン語
05	イタリア語	12	英語
06	日本語（カタカナ）	13	アメリカ英語

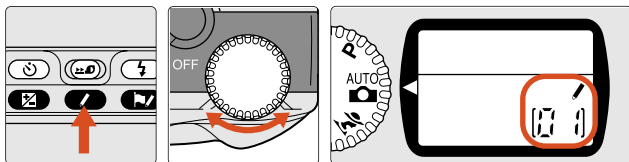
・07はセットできません。

印字できるタイトルの一覧表（日本語）

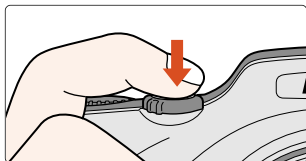
タイトルナンバー	タイトル内容	タイトルナンバー	タイトル内容
--	印字なし	16	パーティ
01	アケマシテオメデトウ	17	アイラブユー
02	ハツモウデ	18	アリガトウ
03	セイジンシキ	19	オタンジョウビオメデトウ
04	セツブン	20	オメデトウ
05	ヒナマツリ	21	リョコウ
06	ソツギョウ	22	ドウソウカイ
07	ニュウガク	23	エンソク
08	コドモノヒ	24	サイコー！
09	タナバタ	25	カンゲキ！
10	ナツヤスミ	26	コンナニオオキクナリマシタ
11	ウンドウカイ	27	キレイ！
12	シチゴサン	28	シュウガクリョコウ
13	メリークリスマス	29	ガンバレ
14	ボウネンカイ	30	ウレシイナ
15	シンコンリョコウ		

言語ナンバーとタイトルナンバーのセットと印字方法

1 電源スイッチをONにして、言語ボタンを押しながら、コマンドダイヤルで印字したい言語の言語ナンバーをセットします。

・言語ナンバーとタイトルナンバーは、1コマごとに変更して印字できます。工場出荷時、言語ナンバーは 12：英語、タイトルナンバーは - -：印字なしにセットされています。
・各言語の印字できるタイトル一覧表は別紙をご覧ください。
・ラボ店によっては印字できない場合があります。現像・プリントを依頼する前にラボ店にご確認ください。

2 タイトルボタンを押しながら、コマンドダイヤルで印字したいタイトルのタイトルナンバーをセットします。

・解除する場合は、タイトルナンバーを - -：印字なしにセットします（☞ P.60）。

操作の詳細（言語・タイトル）

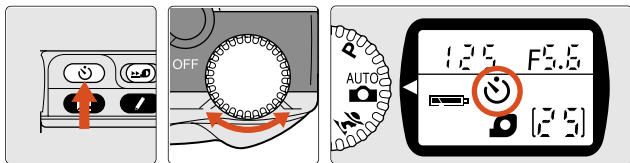
3 この状態で撮影を行えば、プリント時に希望する言語でタイトルが印字されます。

- セットされている言語ナンバーとタイトルナンバーの確認は、それぞれ言語ボタン（言語ボタン）、タイトルボタン（タイトルボタン）を押すことによって行えます。
- このカメラは、日付、時刻、タイトルなどの撮影データをフィルム巻き戻し時に磁気記録していますが、低温時に消耗した電池をご使用になりますと、フィルムの特性により正常な磁気記録が行われない場合があります。このため低温下を避けるか、電池の容量が十分であることを確認し、巻き戻しを行うことをおすすめします。

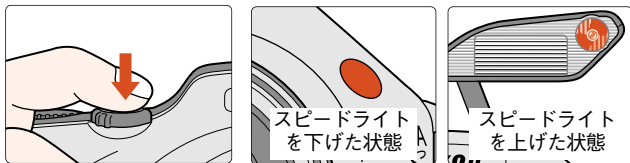
☞ 注意　言語ナンバーとタイトルナンバーの解除について

言語ナンバーとタイトルナンバーは一度セットすると、解除（- -：印字なし）または他のナンバーに変更しない限り維持されます。電源のOFF、電池の交換によって解除することはできませんので注意してください。

セルフタイマー撮影

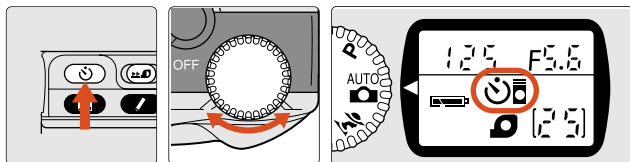
■記念写真など、撮影者自身も一緒に写りたいときなどに便利です。三脚等を使用し、カメラを安定させてから行ってください。

1 表示パネルに⏱が点灯するまでセルフタイマーボタン⏱を押します（または、セルフタイマーボタン⏱とコマンドダイヤルで⏱を点灯させます）。

- AF（オートフォーカス）でピントが合っていない時など、カメラのシャッターがきれない状態ではセルフタイマーは作動しません（警告表示にも注意してください）。
- ファインダーから目を離して撮影するときは、適正露出に影響を与える逆入光を防ぐため、シャッターボタンを押す前に手または付属のアイピースキャップ（☞P.64）で接眼部を覆ってください。
- AF（オートフォーカス）でピントを合わせる場合は、セルフタイマーを作動させる時にレンズを体で覆わないように注意してください。

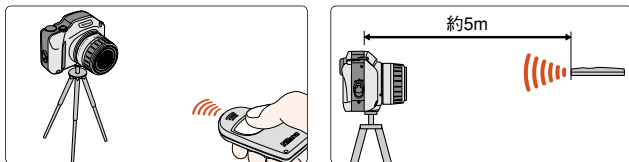
2 構図を決め、ピントを合わせてシャッターボタンを押します。

- 作動を開始すると、セルフタイマーランプが8秒間点滅、2秒間点灯して、シャッターがきれます（表示パネルの⏱は10秒間点滅します）。赤目軽減モード（☞P.65）をセットしている時は、最後の2秒間のランプ点灯後、ランプが赤目軽減モード撮影時の明るさになり、スピードライトが発光します。
- 解除する場合は、作動前に再度セルフタイマーボタン⏱を表示パネルの⏱と▯が消灯するまで押すか、セルフタイマーボタン⏱とコマンドダイヤルで、表示パネルの⏱と▯を消灯させます。作動中はセルフタイマーボタン⏱を押すか、電源スイッチをOFFにすると解除できます。
- バルブ設定時は1/30秒できれます。

リモコン撮影／タイム撮影

■付属のリモコンを使用すると離れた場所からカメラのシャッターをきることができ、記念写真など撮影者自身も一緒に写りたいときに便利です。また、長時間露出（バルブ）にセットして（☞ P.52）送信ボタンを押すと、シャッターが開いたままとなるタイム撮影が行えます。ケーブルレリーズの代わりとしても利用できます。三脚等を使用し、カメラを安定させてご使用ください。

1 表示パネルに ⏲、またはが点灯するまでリモコンボタン ⏲を押します（または、リモコンボタン⏲とコマンドダイヤルで ⏲、またはを点灯させます）。

・リモコンの作動時間には、送信ボタンを押してから2秒後にシャッターがきれる2秒リモコンモード⏲と、瞬時にシャッターがきれる瞬時リモコンモードがあります。
・リモコン撮影をセットすると60秒間、送信機からのリモコン信号を受け付ける待機状態となります。60秒過ぎるとセットが解除され、表示パネルのまたは⏲が消灯します。
・リモコンをセットしAF（オートフォーカス）で撮影する場合、ピント合わせには次の2つの方法があります。
　1. リモコンの信号によりピントを合わせる場合：
　　ピントが合うとシャッターがきれます（2秒リモコン時は2秒後）。ピントが合わないと待機状態になります。
　2. あらかじめシャッターボタンを半押ししてピントを合わせる場合：
　　リモコン待機時間中にシャッターボタンの半押しを続けてファインダー内表示にピント表示●が点灯すると、シャッターボタンから指を離してもフォーカスロック状態となります。リモコンの送信ボタンを押すとシャッターがきれます（2秒リモコン時は2秒後）。
・カメラのシャッターがきれない状態では作動しません。
・ファインダーから目を離して撮影するときは、適正露出に影響を与える逆入光を防ぐため、送信ボタンを押す前に手または付属のアイピースキャップ（☞ P.64）で接眼部を覆ってください。

・シャッターがきれた後は待機時間が20秒となります。

2 リモコンをカメラに向け、送信ボタンを押して、撮影します。

・2秒リモコンモード時はセルフタイマーランプが約2秒間点灯した後シャッターがきれ、瞬時リモコンモード時はシャッターがきれた後セルフタイマーランプが点灯します（スピードライト使用時は除く）。スピードライトを上げた状態で赤目軽減モード（☞ P.65）をセットしている時は、2秒リモコンモード時には約2秒間点灯後、瞬時リモコンモード時にはただちに、赤目軽減モード撮影時の明るさになり、スピードライトが発光します。

・解除したい場合は、作動前は設定時と同様の操作で表示パネルの⏲またはを消灯させます。作動中は電源スイッチをOFFにするか、リモコンボタン（⏲）を押します。

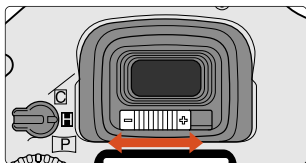
・リモコンを使用しての撮影可能範囲は、カメラの正面で5m以内です。それ以上の範囲での撮影は、セルフタイマー撮影（☞ P.61）を行ってください。また、極端な逆光状態ではリモコン撮影が行えない場合があります。

・送信ボタンを押してもシャッターがきれない場合は、リモコンの電池交換が必要です（電池の寿命は10年間です）。電池の交換は必ず当社のサービスセンター・サービスステーションにご依頼ください（有料）。

要点　タイム撮影について

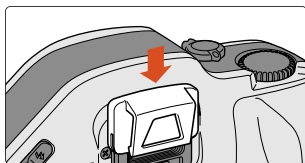
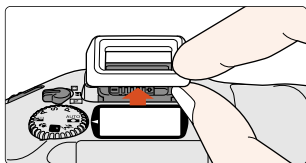
長時間露出（バルブ）（☞ P.52）をセットしてリモコン撮影を行うと、タイム撮影となります。送信ボタンを押すとシャッターが開いたままになり、再度送信ボタンを押すとシャッターが閉じます。長時間露出（バルブ）と同様に夜景や天体撮影などに便利です（三脚のご使用をおすすめします）。タイム撮影中はセルフタイマーランプが2秒間に1回、微弱に点灯して、撮影中であることを知らせます。

視度調節機能／アイピースキャップについて

■視度調節機能により、カメラファインダーをのぞいた時、ファインダー内の像を確認しやすくできます。

・ファインダーをのぞきながら、ファインダー内のフォーカスフレームが、最もシャープに見える位置まで視度調節レバーをスライドさせます。視度調節は－1.5～＋0.5dpt（近視～遠視）の間で可能です。また、別売りの接眼補助レンズは、－5.0～＋3.0dptの間で9種類が用意されています。

☞注意　視度調節レバーをスライドさせる際のご注意

ファインダーをのぞきながら視度調節レバーをスライドさせる際、目に近い位置での操作となりますので、指先やつめで目を傷つけないように注意してください。

■アイピースキャップや接眼補助レンズ等のファインダーアクセサリーの取り付け方

・アイピースキャップや接眼補助レンズをカメラのファインダー接眼部に取り付ける場合は接眼目当てを取り外し、ファインダー接眼部の上から差し込むように取り付けます。また、アイピースキャップや接眼補助レンズを取り外して、接眼目当てを取り付ける場合は、上下を間違えないように注意してください。

スピードライト撮影

内蔵スピードライトとTTL-BL調光について

このカメラには24mmレンズの画角をカバーする、ガイドナンバー16（ISO200・m）のスピードライトが内蔵されています。このスピードライトはマルチパターン測光で得た明るさの情報をもとに、主要被写体と背景の露出を考慮してスピードライトの発光量をバランスよくコントロールするTTL-BL調光を行いますので、自然な感じのスピードライト写真が撮影できます（CPU内蔵ニッコール使用時）。暗いところではもちろん、昼間の屋外撮影でも主要被写体の陰影を弱めたいときや人物の目にキャッチライトを入れたいときなどに補助光としてもご使用いただけます。

- CPU内蔵ニッコール以外のレンズでは、背景の露出が考慮されない、TTL調光となります（できるだけ、CPU内蔵ニッコールレンズをご使用ください）。

シンクロモードの種類と特長

このカメラは、ノーマルシンクロ（通常のシンクロモード）、赤目軽減、スローシンクロ、赤目軽減スローシンクロモード、発光禁止の5つのシンクロモードを備えています。

：赤目軽減モード

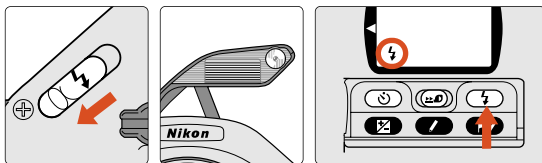
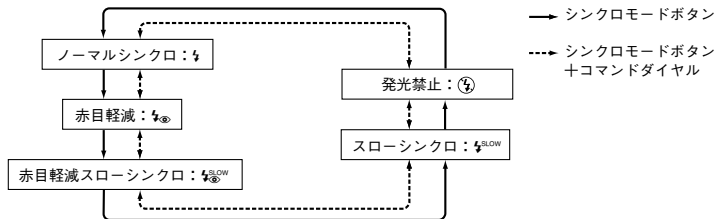
赤目軽減モードにセットしてスピードライト撮影を行えば、スピードライトが発光する前に赤目軽減ランプが約1秒間点灯して、暗い所で人物の目が赤く写るのを軽減することができます。

SLOW：スローシンクロモード

スピードライト撮影では、通常シャッタースピードは1／60～1／125秒に自動的にセットされますが、このモードでは背景の露出が考慮されてより低速域まで制御されます。したがって、背景の夕景や夜景の雰囲気を生かした撮影が行えます。

- 赤目軽減モードとスローシンクロモードは、表示パネルに赤目軽減スローシンクロ表示SLOWを点灯させることにより、同時にセットすることもできます。
- セット可能なシンクロモードは、露出モードによって異なる場合があります。各シンクロモードと各露出モードの組み合わせは、P.70の「各モードの組み合わせについて」をご覧ください。

内蔵スピードライトの撮影方法

1 スピードライトロック解除レバーをスライドさせ、スピードライトを上げ、シンクロモードボタン ⚡ を押してシンクロモードをセットします。

・スピードライトを上げると充電が開始され、完了するとファインダー内にレディライト⚡が点灯します（半押しタイマーON時）。
・シンクロモードボタン ⚡ を押すごとにシンクロモード表示は次のように変化します。また、シンクロモードボタン ⚡ を押しながらコマンドダイヤルを回してもセットできます。

・ノーマルシンクロをセットした時は、シンクロモードボタン ⚡ から指を離すと、ノーマルシンクロ表示⚡は消灯します。
・露出モードが夜景モード（イメージプログラム）の時は、自動的にスローシンクロモードにセットされます（☞ P.70）。
・スピードライトを収納するときは手で軽く押し下げます。
・発光禁止モードは、スピードライトを上げた状態でのみセットできます（スピードライトを収納すると解除されます）。

☞ 注意　各シンクロモードごとのご注意

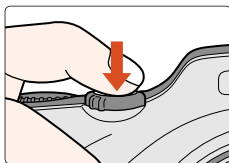
- 赤目軽減モードと赤目軽減スローシンクロモードでは、シャッターボタンを押し込んでから約1秒間赤目軽減ランプが点灯後スピードライトが発光しますので、シャッターがきれるまでカメラや被写体の人物が動いたりしないように注意してください（シャッターチャンスを優先するような撮影にはおすすめできません）。
- 装着するレンズによっては赤目軽減ランプの光がレンズによってケラレ、画面内の人物の位置によっては赤目軽減効果がそこなわれることがあります。
- スローシンクロモードと赤目軽減スローシンクロモードでは、シャッタースピードが遅くなりますので手ブレに注意してください（三脚のご使用をおすすめします）。

2 露出モードをセットし、シャッタースピードと絞りを確認します。

・露出モードごとの、セット可能なシャッタースピードと絞りは下表のとおりです。

露出モード	セット可能な シャッタースピード	セット可能な絞り	参照ページ
AUTOモード マルチプログラムオート イメージプログラム	カメラが自動的にセット	カメラが自動的にセット	☞ P.45 ☞ P.46 ☞ P.49
シャッター優先オート	1/125秒〜30秒※1	カメラが自動的にセット	☞ P.47
絞り優先オート	カメラが自動的にセット	任意の絞り※2	☞ P.48

※1：1/125秒より高速のシャッタースピードにセットしてある場合は、内蔵スピードライトを上げると、自動的に同調シャッタースピードの1/125秒にセットされます。表示パネルの1/125秒以上のシャッタースピード表示は点滅し、ファインダー内表示には1/125秒が点灯します。
※2：調光範囲は使用フィルムのISO感度と絞りによって決まります。絞り優先オート時の絞りのセットは、P.69の調光範囲を考慮して行ってください。

3 ファインダー内にレディライト ϟ が点灯していることを確認し、調光範囲（☞ P.69）を考慮して撮影します。

- シャッターをきった後レディライト ϟ が約3秒間点滅した場合は、フル発光して露出不足の恐れがあります。撮影距離、絞り、調光範囲（☞ P.69）などを再度確認して、撮影し直してください。
- AF（オートフォーカス）で撮影時に被写体が暗い場合は、自動的にAF補助光（☞ P.42）を照射してピントを合わせます。

内蔵スピードライトに使用可能なレンズについて

内蔵スピードライトには、24mm（撮影距離が1m以上)、28〜300mm（撮影距離が0.6m以上）までのCPU内蔵ニッコールレンズが使用できます。ただし、下記のズームレンズではケラレが発生し、写真の周辺光量が低下しますので、使用できる焦点距離や撮影距離に制限があります。

ケラレの起きるAFズームレンズ	注意していただきたいこと
24〜50mm f/3.3〜4.5	28mm以上で使用可能
24〜120mm f/3.5〜5.6	35mm以下は使用不可、50mm時は1.5m以上、120mm時は0.8m以上で使用可能
28〜70mm f/3.5〜4.5	28mmの1m以上で使用可能
28〜80mm f/3.5〜5.6	28mmの1.2m以上で使用可能
28〜85mm f/3.5〜4.5	28mmと35mmは使用不可
28〜105mm f/3.5〜4.5	35mmの1.5m以上で使用可能
28〜200mm f/3.5〜5.6	28mmと35mmは使用不可
35〜70mm f/2.8	35mmは使用不可
35〜135mm f/3.5〜4.5	35mmの2m以上で使用可能
70〜180mm f/4.5〜5.6	70mmの3m以上と100mmの1m以上で使用可能
80〜200mm f/2.8	80mmは使用不可

- レンズフードは取り外して使用してください。
- マクロ付きズームレンズはマクロ領域では使用できません。
- 焦点距離が300mm以下のもののうち、下記のレンズは使用できません：
  AF-S 300mm f/2.8D、AF-I 300mm f/2.8D、AF28mm f/1.4、AF-Sズーム28～70mm f/2.8D、AFズーム20～35mm f/2.8D
- AFニッコールレンズ以外のレンズのご使用はおすすめできません。
- IX240システム対応カメラは、焦点距離と画角の関係が35mm判カメラ使用時の場合と異なります（☞P.38）。

調光範囲（光の届く範囲）について

スピードライトは、使用するフィルムのISO感度と絞りによって調光範囲（光の届く範囲）が異なります。下表を参考にしてください。

ISO感度　＜　＞内はガイドナンバー						調光範囲（m）※
25＜5.5＞	50＜7.8＞	100＜11＞	200＜15.6＞	400＜22＞	800＜31＞	
——	——	1.4	2	2.8	4	1.4～7.9
——	1.4	2	2.8	4	5.6	1～5.5
1.4	2	2.8	4	5.6	8	0.7～3.9
2	2.8	4	5.6	8	11	0.6～2.8
2.8	4	5.6	8	11	16	0.6～2
4	5.6	8	11	16	22	0.6～1.4
5.6	8	11	16	22	32	0.6～1
8	11	16	22	32	——	0.6～0.7

※スピードライト光の届く距離は、ガイドナンバー［このカメラの内蔵スピードライトの場合は16（ISO200・m）］÷セットした絞り値によっても、割り出すことができます。

スレーブフラッシュコントローラーSU-4について

スレーブフラッシュコントローラーSU-4を使用すれば、内蔵スピードライトと同時に、別売りのスピードライトを発光させることができます。
P.72の「別売りアクセサリーについて」もご覧ください。

各モードの組み合わせについて

■各露出モードと各機能の組み合わせを一覧表にしてあります。装着レンズはIXおよびAFニッコールを基準に説明しています。

可能な撮影 / 露出モード名	AFモード※ P.42	AF補助光 P.42	プログラムシフト P.51	露出補正 P.53	測光モード P.51	ノーマルシンクロ P.32	赤目軽減 P.65	赤目軽減スローシンクロ P.65	スローシンクロ P.65	発光禁止 P.66
AUTO オート	AF-A	○	ー	ー	マルチパターン	◎	○	ー	ー	ー
P マルチプログラム	AF-A	○	○	○	マルチパターン	○	○	○	○	○
S シャッター優先オート	AF-A	○	ー	○	マルチパターン	○	○	ー	ー	○
A 絞り優先オート	AF-A	○	ー	○	マルチパターン	○	○	○	○	○
ポートレート	AF-A	○	○	○	マルチパターン	◎	○	ー	ー	○
風景	AF-A	ー	○	○	マルチパターン	◎	○	ー	ー	○
クローズアップ	AF-A	○	○	○	マルチパターン	◎	○	ー	ー	○
夜景	AF-A	○	○	○	マルチパターン	ー	ー	○	◎	○

AF-A：オートAFサーボ

○：セットできます。
◎：露出モードがセットされると、自動的にこのモードにセットされます（ただし、他のシンクロモードへの切り換えも可能です）。
ー：セットできません。

※AF補助光照射中や赤目軽減モード、赤目軽減スローシンクロモードで赤目軽減ランプが点灯している場合はコンティニュアスAFサーボ（AF-C）には切り換わりません（セルフタイマー撮影中やリモコン撮影時の待機中も同様です）。

・CPU内蔵ニッコール以外のレンズを装着した場合、露出モードはS（シャッター優先オート）でのみ撮影が行えます。ただし、シャッタースピードと絞りは撮影者自身がセットする必要があります。また、カメラの露出計は作動しません。絞りのセットはレンズの絞りリングで行ってください（表示パネルとファインダー内表示の絞り表示は、F--となります）。また、S（シャッター優先オート）では長時間露出（バルブ／タイム）撮影が行えます。

・各シンクロモードは、TTL-BL調光（☞ P.65）で制御されますが、CPU内蔵ニッコール以外のレンズを装着した場合は、TTL調光となります。

資料編

別売りアクセサリー、
カメラと電池の取り扱いについて、
仕様、索引などが書かれています。

別売りアクセサリーについて

■ここでは、別売りアクセサリーのうち代表的なものをご紹介します。

専用ソフトケース

このカメラには2種類の専用ケースが用意されています。
・CS-27 ：IX30～60mm f/4～5.6レンズを装着したまま収納できます。
・CS-28 ：IX60～180mm f/4.5～5.6レンズを装着したまま収納できます。

パワーパック MB-11

MB-11をプロネアSに装着すると、入手が容易な単3形アルカリ乾電池や単3形リチウム電池4本が使用できます。特に単3形リチウム電池を使用すると、撮影可能なフィルム本数が増すとともに、低温時でも安定した性能が得られます。

IXニッコールレンズ・AFニッコールレンズ

プロネア専用交換レンズとして、IXニッコール30～60mm f/4～5.6、60～180mm f/4.5～5.6、20～60mm f/3.5～5.6、24～70mm f/3.5～5.6、60～180mm f/4～5.6が用意されています。また、AFニッコールは16mmフィッシュアイレンズから600mm超望遠レンズまで、数十種類のレンズが使用できます。このカメラには、そのほとんどのレンズが使用可能で、撮影領域がより拡がります。

フィルター

レンズ保護用としてNCフィルター、特殊撮影用として円偏光フィルターなどが用意されています。

スレーブフラッシュコントローラーSU-4

別売りスピードライトにスレーブフラッシュコントローラーSU-4を装着すれば、プロネアSの内蔵スピードライトの発光と同時に、別売りスピードライトを発光させることができ、TTL調光による増灯撮影が行えます。

ブラケットSK-7

ブラケットSK-7を使えば、SU-4を装着した別売りスピードライトをプロネアSに取りつけることができます。

カメラの取り扱いと電池の取り扱いについて

■カメラの取り扱い

シンナーやベンジンなどの有機溶剤をカメラの清浄に使用しないこと
火災や健康障害の原因となります。
製品を破損します。

●カメラ本体をお手入れする際の注意

カメラ本体のお手入れは、ブロアーでゴミやホコリを軽く吹き払った後、柔らかい清潔な布で軽く拭いてください。
特に、海辺で使った後は、真水を数滴たらした柔らかい清潔な布で塩分を拭き取ってから、乾いた布で軽く拭いて乾かしてください。

●ミラーやレンズをお手入れする際の注意

レンズやミラーにゴミやホコリが付いているときは、キズが付きやすいので、ブロアーでゴミやホコリを軽く吹き払う程度にしてください。
万一指紋などが付いてしまった場合は、柔らかい清潔な布に市販のレンズクリーナーを少量湿らせ、軽く拭き取ってください。

●強いショックを与えないでください。

カメラおよびレンズを落としたり、ぶつけたりしないように注意してください。
強い衝撃や振動を加えますと、破損したり精密に調整された部分に悪影響を及ぼします。

●強い電波や磁気を発生する場所は避けてください。

テレビ塔のような強い電波や磁気の発生する場所では、カメラが正常に作動しなくなることがありますので注意してください。

●風通しの良い場所に保管してください。

カビや故障などを防止するために、風通しのよい乾燥した場所を選んでカメラを保管してください。
・ナフタリンや樟脳の入ったタンスの中、磁気を発生する器具のそば、極度に高温となる夏期の車内、使用しているストーブの前などにカメラを置かないでください。故障の原因になります。

●極端な温度変化は避けてください。

温度差が極端となる所（寒い所から急に暖かい所や、その逆となる所）にカメラを持ち込むと、カメラの内外に水滴を生じます。
・カメラをバッグやビニール袋などに入れて、周囲の温度になじませてからご使用ください。

●保管する際は電池を取り出し、乾燥剤といっしょにしてください。

長期間カメラを使用しないときは、電池の液漏れなどからカメラを保護するために、カメラから電池を取り出して保管してください。

・保管する際は、カメラをポリエチレン袋などに乾燥剤といっしょに入れておくとより安全です（電池も高温多湿となる場所を避けて保管してください）。ただし、皮ケースをビニール袋に入れておくと、変質することがありますので避けてください。
・乾燥剤（シリカゲル）は湿気を吸って効力がなくなりますので、ときどきとりかえてください。
・カメラを長期間使用しないまま放置しておくと、カビや故障の原因となることがありますので、1ヵ月に1度を目安に電源を入れて、スピードライトを発光させながら数回シャッターをきってください。

■電池の取り扱い

放置禁止

電池は幼児の手の届かないところにおくこと

万一、お子様が飲み込んだ場合は、ただちに医師と相談してください。

●3Vリチウム電池（CR2）2本を使用してください。

・大切な撮影に際しては、早めに電池を交換するか、予備の電池を携行してください。

●電池を入れるときは、カメラの電源をOFFにしてください。

電池を入れるときは、カメラの電源スイッチをOFFにしてから、⊕⊖を間違いのないよう正しく入れてください。

・交換するときは、同一メーカーの同じ種類の新しい電池2本を同時に交換してください。
・付属の電池は購入時の作動テスト用ですので、寿命が短い場合があります。
・電池の両極が汗や油などで汚れていると、接触不良の原因となります。乾いた布でよく拭いてから使用してください。

●低温時には新しい電池を使用してください。

低温時に消耗した電池を使いますと、カメラが作動しなくなることがあります。
低温時に撮影する場合は、新しい電池を使用し、保温した予備の電池を用意して暖めながら交互に使用してください。

・低温時は、常温時より巻き上げ速度や撮影可能本数も低下します。低温のために、一時的に性能が低下して使えなかった電池でも、常温に戻ると使える場合があります。

●電池を火の中に投入したり、ショートさせないでください。

電池を火の中に投入したり、ショートさせたり、分解、加熱、充電したりしないでください。

アフターサービスと保証について

■この製品についてのお問い合わせは

ご意見、ご質問は最寄りのニコンサービスセンター、サービスステーション等、当社サービス機関へお寄せください。

●当社サービス機関につきましては、使用説明書裏面をご参照ください。

■修理を依頼される場合は

ご購入店、または当社サービス機関にご依頼ください。

●ご転居、ご贈答品などでご購入店に修理を依頼することができない場合は、最寄りの販売店、または当社サービス機関にご相談ください。

■補修用性能部品について

このカメラの補修用性能部品の保有期間は、製造打ち切り後7年間を目安としています。

●補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

●修理可能期間は、部品保有期間内とさせていただきます。なお、部品保有期間経過後におきましても、修理可能な場合もありますので、ご購入店、または当社サービス機関へお問い合わせください。

●水没、火災、落下等による故障、または破損で全損と認められる場合は、修理が不可能となります。なお、この故障または破損の程度の判定は、当社サービス機関にお任せください。

製品の保証について

① この製品には「保証書」がついていますのでご確認ください。

② 保証書はお買い上げの際、ご購入店からお客様に直接お渡しすることになっています。
「ご愛用者氏名」および「ご住所」「購入年月日」「購入店名」がすべて記載された保証書をお受け取りになり、内容をよくお読みのうえ、大切に保管してください。

③ 保証規定による保証修理は、ご購入日から1 年間となっております。
「保証書」をお受け取りになりませんと、上述の保証修理がお受けになれないことになりますので、もしお受け取りにならなかった場合は、ただちにご購入店にご請求ください。

④海外での保証内修理は領収書の提示を求められることがありますので、保証書とともに領収書の携行をお願い致します（領収書のない場合は有料となる場合があります）。

⑤保証期間経過後の修理は、原則として有料となります。また、運賃諸掛かりはお客様にご負担願います。

⑥ 保証期間中や保証期間経過後の修理、故障など、アフターサービスについてご不明なことがございましたら、ご購入店、または当社サービス機関へお問い合わせください。

故障かな？と思ったら（修理を依頼される前に）

こんなとき		原因	対処方法	参照ページ
表示パネル	ファインダー内			
FEE（点滅）	FEE（点滅）	●レンズの絞りリングが最小絞りになっていません。	●レンズの絞りリングを最小絞りにしてください。	P.21
（電池マーク）（点灯）		●電池容量がわずかです。	●予備の電池を用意してください。	P.19
（電池マーク）（点滅）		●電池が消耗しています。	●電池を交換してください。	P.18
Errと（電池マーク）（点滅）	Err（点滅）	●電池容量が低下、もしくは低温環境下で各作動が異常に遅くなった場合は、警告表示とともに停止します。	●電源スイッチをいったんOFFにして電池を交換した後、電源スイッチをONにしてください。	P.18
F--（点滅）	F--（点滅）	●CPU内蔵ニッコール以外のレンズが装着されているか、またはレンズが装着されていません。	●CPU内蔵ニッコール（IXニッコールを含む）を使用してください（ただし、Sモードにセットすれば撮影できます）。	P.20 P.37
Errと（フィルムマーク）（点滅） E（点灯）	Err（点滅）	●フィルムが正しく装てんされていないか、撮影済みのカートリッジフィルムが入っています。 ●フィルムの再装てん時に磁気ノイズを検知した場合（カートリッジが途中まで使用の場合）。 ●フィルムの再装てん時に1コマも磁気情報が無いか、最終コマまで磁気書き込みがある場合。 ●使用不可能なフィルム（異常）が装てんされた場合。	●フィルムを取り出して装てんし直すか、新しいカートリッジフィルムに交換してください。 ●電源スイッチをOFFからONにするか、カートリッジフィルムを入れ直すかしてください。 ●新しいカートリッジフィルムに交換してください。 ●新しいカートリッジフィルムに交換してください。	P.22 P.22 P.22 P.22

こんなとき		原因	対処方法	参照ページ
表示パネル	ファインダー内			
（点滅）		●フィルム巻き戻し完了後、カートリッジフィルムを取り出さずにおくと、シャッターボタンを押すたびに点滅します。 ●電池を入れない（または電池が消耗）状態でカートリッジフィルムを装てんし、その後電池を入れた場合。	●カートリッジフィルムを取り出してください。 ●電源スイッチをONにしてカートリッジフィルムを入れ直してください。	P.31 P.22
Errと （点滅）		●電池容量が低下している場合や低温時はモーターが停止し、フィルム巻き戻しが行われません。	●電源スイッチをいったんOFFにして電池を交換した後、電源スイッチをONにして再び巻き戻しを行ってください。	P.18 P.40
Errと PRINT （点滅） または Errと PRINT （点滅）	Err （点滅）	●フィルム巻き戻し時に何らかの異常が生じた場合。 ●巻き戻し中にカートリッジぶたを開けた場合。 ●正常な巻き戻しが行われない場合（低電圧）。 ●撮影可能コマ数と撮影完了コマ数が異なった場合。	●まず、電源スイッチをいったんOFFにしてからONにします。それでも巻き戻しが正常に作動しない場合は、再度電源スイッチをOFFにして電池を交換した後、電源をONにしてください。	P.18
Err （点滅）	Err （点滅）	●何らかの不具合が発生しています。	●電源スイッチをいったんOFFにして、再度ONにしてください。	P.18
	▶◀ （点滅）	●AF（オートフォーカス）でピント合わせができません。	●M（マニュアル）でピント合わせを行ってください。	P.43
	◀ （点灯）	●被写体に近づきすぎています。	●被写体からもっと離れて撮影を行ってください。	P.29
HI （点灯）	HI （点灯）	●被写体が明るすぎてカメラの制御範囲を超えています。	●Sモード時はシャッタースピードをより高速側にセットしてください。	P.47

こんなとき		原因	対処方法	参照ページ
表示パネル	ファインダー内			
HI（点灯）	HI（点灯）	●被写体が明るすぎてカメラの制御範囲を超えています。	●Aモード時はより大きい数値の絞り値にしてください。 ●その他の露出モードでは、ND（光量調節用）フィルターを使用してください。	P.48 P.45〜49
Lo（点灯）	Lo（点灯）	●被写体が暗すぎて、カメラの制御範囲を超えています。	●Sモード時はシャッタースピードをより低速側にセットしてください。 ●Aモード時はより小さい数値の絞り値にしてください。 ●その他、スピードライトを使用してください。	P.47 P.48 P.45〜49
bulb（点滅） F--（点滅）	bul（点滅） F--（点滅）	●Sモードでシャッタースピードが長時間露出（bulb）撮影にセットされています。	●Sモードのままで30秒より速いシャッタースピードにセットし、長時間露出を解除してください。または、長時間露出撮影を行う場合は、いったんAモードにセットしてコマンドダイヤルで絞りをセットしてください。	P.47 P.52
	ϟ（点滅）	●被写体が暗いのでスピードライトの使用をすすめています。	●内蔵スピードライトを使用してください。	P.32 P.65
	ϟ（点滅）	●発光直後の約3秒間の点滅は、フル発光して露出不足の恐れがあります。	●撮影距離、絞り値、調光範囲などを再度確認して、撮影し直してください。	P.67 P.69
シャッタースピード表示（点滅）	125（点灯）	●Sモードでスピードライト使用時、シャッタースピードが1/125秒に自動的にセットされています。	●そのまま撮影を行えば、シャッターが1/125秒できれ、スピードライトが発光します。	P.67

電子制御カメラの特性について

きわめて稀なケースとして、表示パネルに異常な表示が点灯したまま、カメラが作動しなくなることがあります。原因として、外部から強力な静電気が電子回路内部に侵入したことが考えられます。万一このような状態になったときは、電源スイッチをOFFにして電池を入れ直し、電源スイッチをONにしてカメラを作動させてみてください。

仕様

形式	モーター、スピードライト内蔵IX240システム一眼レフレックス電子制御式フォーカルプレーンシャッターオートフォーカスカメラ
露出制御	：オートモード P：マルチプログラムオート（プログラムシフト可能） S ：シャッター優先オート A：絞り優先オート イメージプログラム（：ポートレートモード、：風景モード、：クローズアップモード、：夜景モード、プログラムシフト可能）
画面サイズ	16.7×30.2mm
プリントタイプ切り換え	H／P／Cの3種類のプリントタイプ選択可能
レンズマウント	ニコンFマウント
交換レンズ	・IXニッコール、DタイプAFニッコール、AF-S・AF-Iニッコール：フル機能使用可。 ・Dタイプ以外のAFニッコール（F3AF用を除く）：3D-6分割マルチパターン測光を除く機能使用可。 ・Ai-Pニッコール：3D-6分割マルチパターン測光およびオートフォーカスを除く機能使用可。 ・CPU内蔵ニッコール以外（Ai-S／Ai／シリーズE／改造Ai）のレンズ：露出モードはSモードで可（露出計は使用不可）、f/5.6以上明るいレンズでフォーカスエイド可
使用フィルム	IX240カートリッジフィルム
ファインダー	アイレベル式ペンタダハミラー使用（アイポイント約18mm）
ファインダースクリーン	クリアマットスクリーンⅣ（フォーカスフレーム付）標準装備
ファインダー視野率／ プリント視野率	ファインダー視野率：約87％（対実画面・50mmレンズ使用時）、 プリント視野率：約95％（対プリント画面・P、H、Cタイプとも）
ファインダー倍率	約0.72～0.79倍（50mmレンズ使用、∞時）
視度調節	－1.5～＋0.5dpt
ファインダー内表示	ピント表示（合焦、前ピン、後ピン、合焦不能警告）・FEE警告・Err警告・F--警告・露出値（シャッタースピード、絞り）・露出警告・露出補正マーク・フォーカスフレーム・プリントタイプH・P・C用フレーム・レディライト（充電完了、フル発光時の警告）・スピードライト推奨マーク
オートフォーカス	・TTL 位相検出方式、AF補助光付（22～180mmレンズで使用可能、測距可能範囲：約0.5～3m＜スピードライト収納時約0.5～2m＞） ・シャッターボタンの半押しを続けると作動する ・検出範囲：EV0～EV20（ISO200、常温）
レンズサーボ	AF ：オートAFサーボ：シングルAFサーボかコンティニュアスAFサーボのどちらかを被写体の動きと動きの方向によってカメラが自動的に選択する ・シングルAFサーボ（ピントが合うとフォーカスロックする） ・コンティニュアスAFサーボ（被写体の動きに合わせ、ピントを追い続ける） M ：マニュアル

仕様ーつづきー

フォーカスロック	シングルAFサーボ時は、シャッターボタンの半押し操作で合焦したとき、シャッターボタンの半押し中は可能
測光方式	・3D-6分割マルチパターン測光：IXニッコール、DタイプAFニッコール、AF-S・AF-Iニッコール装着時 ・6分割マルチパターン測光：Dタイプ以外のAFニッコール（F3AF用を除く）／Ai-Pニッコール装着時
測光範囲	ISO200、50mmF1.4レンズ使用時、EV2〜21
フィルム感度設定	IX方式による自動設定、フィルム感度連動範囲：ISO25〜10000、
半押しタイマー	電源スイッチON後、無操作状態で5秒、または電源スイッチON状態で、シャッターボタンの半押し後シャッターボタンから指を離してから5秒。レリーズ直後は2 秒（スピードライト撮影時は5秒）
露出補正	補正範囲：1／2段ステップで±2段の補正可能
シャッター	電子制御上下走行式フォーカルプレーンシャッター
シャッタースピード	・AUTO、P、A、、、、 時：30秒〜1／2000秒（カメラが自動設定） ・Sモード時：bulb.30 秒〜1／2000秒、タイム（リモコン使用時）
セルフタイマー	電子制御式、作動時間10秒、途中解除可能
リモートコントロール機能	専用赤外光を利用、送信ボタンによるスタート、瞬時シャッター作動と2秒後シャッター作動のいずれか選択可能、到達距離はカメラ正面で約5m、送信機電池寿命約10年 大きさ：約60×27×10mm（幅×高さ×厚み）、重量：約13g （電池含む）
シンクロ接点 （内蔵スピードライトのみ） （外部接点は無し）	・X接点のみ（半導体方式）、1／125秒以下の低速シャッタースピードでスピードライトに同調 ・スピードライト使用時に、1/2000秒〜1／180秒に設定してあるときは1／125秒に自動切り換え
内蔵スピードライト	解除レバー操作による手動ポップアップ方式 ガイドナンバー16（ISO200・m、20℃） 照射角24mmレンズの画角をカバー（撮影距離1m以上） フィルム感度連動範囲ISO25〜800
スピードライトの調光方式	TTL自動調光センサー一体型ICによる以下の調光制御 ・TTL-BL調光：CPU内蔵ニッコールとの組み合わせ時 ・TTL調光：CPU内蔵ニッコール以外のレンズとの組み合わせ時
シンクロモード	ノーマルシンクロ、赤目軽減、赤目軽減スローシンクロ、スローシンクロモード、発光禁止の選択可能。
スピードライト推奨マーク	・スピードライト撮影推奨時（低輝度時）：レディライト点滅
レディライト	・スピードライト充電完了時：点灯（充電時間、最短で約3〜3.5秒） ・フル発光による露出警告時：点滅（レリーズ後3秒間）

フィルム装てん	ワンタッチローディング方式（カートリッジ装てん後、カートリッジぶた閉じることにより、未露光部の最初のコマまで自動巻き上げ）
フィルム巻き上げ	内蔵モーターによる自動巻き上げ、1コマ巻き上げ（フィルム終端で自動巻き戻し）
フィルムカウンター	液晶によるデジタル表示、逆算式
フィルム巻き戻し	フィルム終端で自動巻き戻し開始、40EX約20秒
フィルム途中取り出し	途中巻き戻しボタン操作により取り出し可能、撮影途中のフィルムを再装てんすることにより、撮影可能な未露光部の最初のコマまで自動巻き上げ
クォーツデート／タイトル機能	・液晶表示によるクォーツデジタルウォッチ内蔵（時計精度月差±90秒以内） ・デートデータ／タイトル：磁気記録 ・記録内容：プリント表面は年月日・月日年・日月年・時分・写し込み解除、プリント裏面は年月日・時分（写し込み解除時）、月末とうるう年自動修正（2029年12月31日まで対応）／12言語、30タイトルをプリント裏面に印字可能 ・電源：カメラ本体より電源供給、カメラ本体の電池を取り外した状態で約5分間データを記憶
表示パネル	液晶表示により以下の内容を表示 露出値（シャッタースピード、絞り値）／デート・シンクロモード・露出補正マーク・露出補正量・フィルムカウンター・FEE警告・Err警告・F--警告・カートリッジ在中マーク・セルフタイマーマーク・バッテリーチェック・データ記録マーク・言語／タイトルマーク・リモコンマーク
撮影可能なフィルム本数（CR2使用時）	フォーカスモードAF、シャッタースピード1／125秒以上、IXニッコール30～60mm f/4～5.6を装着し1コマ毎に半押しタイマー5秒ON後、レンズを無限から至近間を1往復させてシャッターをきった場合。[　] 内はスピードライトを50%発光させた場合 40枚撮り：常温（20℃）時、約30本[13本]、低温（－10℃）時、約17本[7本] 25枚撮り：常温（20℃）時、約41本[19本]、低温（－10℃）時、約20本[11本]
使用電池	リチウム電池2本（CR2タイプ）使用、MB-11使用時は単3形アルカリまたはリチウム電池4本使用
電池容量チェック	半押しタイマーON状態のとき、表示パネルに電池容量のチェック表示を以下の3段階で表示。 ・点灯：電池容量充分 ・点灯：電池容量わずか（予備の電池を準備） ・点滅：電池交換（表示消灯時も電池交換）
三脚ネジ穴	1／4インチ（JIS規格）
大きさ	約116（幅）×87（高さ）×57（奥行き）mm
重量	約325g（電池を除く）

＊仕様中のデータは特に記載のある場合を除き、すべて常温（20℃）、新品電池使用時のものです。

仕様、外観の一部を、改善のため予告なしに変更することがあります。

索引　五十音順（操作ボタン・レバー等は、各部の名称をご覧ください）